

ノートブック コンピューター

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。



警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。



PCG-505



警告 安全のために

ソニー製品は安全に十分配慮して設計されています。しかし、電気製品はまちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故につながる場合があります。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

6～11ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。

故障したら使わない

すぐにITテクニカルレスポンスセンター修理窓口、または販売店にご連絡ください。

万一異常が起きたら

- 煙が出たら
- 異常な音、においがしたら
- 内部に水、異物が入ったら
- 製品を落としたり、キャビネットを破損したとき



- ① 電源を切る
- ② 電源コードや接続ケーブルを抜く
またはバッテリーを取りはずす
- ③ ITテクニカルレスポンスセンター修理窓口、または販売店に連絡する

データはバックアップをとる

ハードディスク内の記録内容は、バックアップをとって保存してください。ハードディスクにトラブルが生じて、記録内容の修復が不可能になった場合、当社は一切その責任を負いません。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。



危険
この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。



警告
この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなどの人身事故につながる場合があります。



注意
この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたリ周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



行為を禁止する記号



行為を指示する記号



電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づく第二種情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

漏洩電流自主規制について

この装置の本体およびディスプレイは、それぞれ社団法人日本電子工業振興協会のパソコン基準 (PC-11-1988) に適合しております。

瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお勧めします。

(社団法人日本電子工業振興協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示)

- VAIOはソニー株式会社の商標です。
- Microsoft、MS、MS-DOSおよびWindowsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- IBMおよびPC/AT、PS/2は、米国International Business Machines Corporationの商標および登録商標です。
- So-netは、ソニーコミュニケーションネットワーク株式会社の登録商標です。
- その他、本書で登場するシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中では™、®マークは明記していません。

権利者の許諾を得ることなく、本機に付属のソフトウェアおよび取扱説明書の内容の全部または一部を複製すること、およびソフトウェアを賃貸することは、著作権法上禁止されております。

本機に付属のソフトウェアを使用したことによって生じた金銭上の傷害、逸失利益、および第三者からのいかなる請求等につきましても、当社は、一切その責任を負いかねます。

万一、製造上の原因による不良がありましたらお取り替えいたします。それ以外の責はご容赦ください。

本機に付属のソフトウェアは、本機以外には使用できません。

本機に付属のソフトウェアの仕様は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご容赦ください。

目次

△危険・△警告・△注意 6
こんなことができます 12
マニュアルの使いかた 14

操作編

基本的な使いかた

電源を入れる 18
電源を切るには 19
再起動するには 21
タッチパッドを使う 22
キーボードを使う 24
文字を入力する 26
日本語入力のまえに 26
入力のしかたを選ぶ 28
文字を入力する 29
フロッピーディスクを使う 34
フロッピーディスクドライブを 取り付ける 34
フロッピーディスクを入れる 36
データを書き込み禁止にする 37
使用できるフロッピーディスク 37
バッテリーで使う 39
バッテリーパックを取り付ける 40
バッテリーを充電する 41

VAIOを使いこなす

インターネット/パソコン通信を 楽しむ 42
インターネットを楽しむには 43
パソコン通信を楽しむには ... 45
外出先でインターネット/ パソコン通信にアクセスする 46

情報をメモして活用する 49
本機のメモ機能について 49
付属のペンの使いかた 49
手書きの絵メモをつくる (手書きメモ)..... 50
手書き文字で記録をとる (手書きワープロ)..... 51
音声でメモをとる (ボイスメモ)..... 53
作成したメモをデスクトップに 貼りつける 54
好みのソフトウェアを自動的に 起動する 55
ワンタッチで好みのソフト ウェアを起動する 55
内蔵タイマーで好みのソフト ウェアを起動する 57
ワンタッチで電子メールを 確認する 58
電話/ファックスを使う 61
電話/ファックスを準備する 61
電話をかける 64
電話を受ける 65
ファックスを送る 66
ファックスを受ける 67
他の機器とデータをやりとりする 68
赤外線(IrDA)でデータを やりとりする 68
シリアルケーブルを使って データをやりとりする 70
ネットワーク(LAN)につない でデータをやりとりする .. 71
PCカードを使ってデータを やりとりする 71
音楽CD/ビデオCDを再生する 72
Media Barで音楽CD/ ビデオCDを再生する 72
いろいろなソフトウェアを使う 73

拡張編

周辺機器を接続する

内蔵モデムを電話回線につなぐ	76
CD-ROMドライブをつなぐ.....	79
デジタルスチルカメラを使う.....	81
外部スピーカーを取り付ける.....	83
ポートリプリケーターを使って 拡張する.....	84

本体を拡張する

メモリーを増設する.....	89
PCカードを使う.....	89

セットアップ編

本機の使用環境を設定する

本機の情報を確認する.....	94
赤外線データ通信(IrDA)の設定を 変更する.....	95
プリンタポートの設定を変更する	97
起動ディスクを指定する.....	98
パスワードを登録する.....	99
デバイスを一時的に使用できない ように設定する.....	101
使用するデバイスごとに詳細な 設定をする.....	102

バッテリーの消費電力を 節約する

PowerPanelを起動する.....	104
使用環境にあったプロファイルを 選ぶ.....	105
省電力動作モードについて.....	108

バッテリーの残量を確認する

BatteryScopeを起動する.....	110
バッテリー残量の見かた.....	112

画面表示の設定を変更する

ディスプレイの設定を変更する	113
表示するディスプレイを選ぶ... ..	115

その他

使用上のご注意.....	120
お手入れ.....	124
保証書とアフターサービス.....	125
主な仕様.....	126
ソフトウェアをアンインストール する/再インストールする....	128
リカバリーCDで 本機を再セットアップする....	130
各部のなまえ.....	135
キーボードショートカット.....	139
故障かな?と思ったら.....	141
索引.....	145



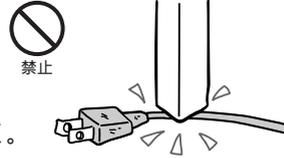
下記の注意事項を守らないと**火災・感電**などにより**死亡**や**大けが**の原因となります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 本機と机や壁などの間にはさみこんだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけたり、加熱したりしない。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

万一、電源コードが傷んだら、ITテクニカルレスポンスセンター修理窓口、または販売店に交換をご依頼ください。



油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となります。取扱説明書に記されている使用条件以外の環境でのご使用は、火災や感電の原因となります。



内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードや接続ケーブルを抜いて、ITテクニカルレスポンスセンター修理窓口、または販売店にご相談ください。



内部を開けない

内部には電圧の高い部分があり、開けたり改造したりすると、火災や感電の原因となります。内部の点検、修理はITテクニカルレスポンスセンター修理窓口、または販売店にご依頼ください。



付属のACアダプター以外は使用しない

火災や感電の原因となります。



禁止

雷が鳴りだしたら、テレホンコードや電源プラグに触れない

感電の原因となります。



禁止

ひざの上で長時間使用しない

長時間使用すると本体の底面が熱くなり、低温やけどの原因となります。



禁止

本機は日本国内専用です

本機に内蔵されているモデムは国内専用です。海外などでモデムを使用すると、故障・火災・感電の原因となります。



強制



下記の注意事項を守らないと、**健康を害する**おそれがあります。

ディスプレイ画面を長時間続けて見ない

ディスプレイなどの画面を長時間見続けると、目が疲れたり、視力が低下するおそれがあります。

ディスプレイ画面を見続けて体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは医師の診察を受けてください。



禁止

キーボードを使いすぎない

キーボードやタッチ패드などを長時間使い続けると、腕や手首が痛くなったりすることがあります。

キーボードやタッチ패드を使用中、体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みが取れないときは医師の診察を受けてください。



禁止



下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**物品に損害**を与えたりすることがあります。

ぬれた手で電源プラグにさわらない

ぬれた手で電源プラグの抜き差しをすると、感電の原因となることがあります。



接続するときは電源を切る

電源コードや接続ケーブルを接続するときは、本機や接続する機器の電源を切ってください。感電や故障の原因となることがあります。



指定された電源コードや接続ケーブルを使う

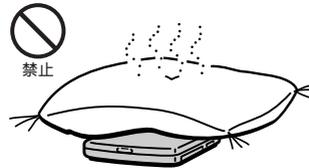
取扱説明書に記されている電源コードや接続ケーブルを使わないと、感電や故障の原因となることがあります。



通風孔をふさがない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。風通しをよくするために次の項目をお守りください。

- 毛足の長い敷物(じゅうたんや毛布など)の上に放置しない。
- 布などでくるまない。



通電中の本体やACアダプターに長時間ふれない

長時間皮膚がふれたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。



本体やACアダプターを布や布団などでおおった状態で使用しない

熱がこもってケースが変形したり、火災の原因となることがあります。



安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いたところなどに置かないでください。また、横にしたり、ひっくり返して置いたりしないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。



本機の上に重いものを載せない

壊れたり、落ちたりして、けがの原因となることがあります。



お手入れの際は、電源を切ってプラグを抜く

電源を接続したままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



移動させるときは、電源コードや接続ケーブルを抜く

接続したまま移動させると、ケーブルが傷つき、火災や感電の原因となったり、接続している機器が落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。また、本機を落とさないようにご注意ください。



コネクターはきちんと接続する

- コネクターの内部に金属片を入れないでください。ピンとピンがショート(短絡)して、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクターはまっすぐに差し込んで接続してください。斜めに差し込むと、ピンとピンがショートして、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクターに固定用のスプリングやネジがある場合は、それらで確実に固定してください。接続不良が防げます。





注意

下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**物品**に**損害**を与えたりすることがあります。

長時間使用しないときは電源プラグを抜く
長時間使用しないときは、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。



プラグをコンセントから抜く

直射日光のあたる場所や熱器具の近くに設置・保管しない
内部の温度が上がり、火災や故障の原因となることがあります。



禁止



液晶画面に衝撃を与えない

液晶画面はガラス製のため、強い衝撃を与えると割れて、けがの原因となることがあります。



禁止



電池についての安全上のご注意

漏液、発熱、発火、破裂などを避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

危険

- 指定された充電方法以外で充電しない。
- 火の中に入れてない。ショートさせたり、分解しない。電子レンジやオーブンで加熱しない。コインやヘヤーピンなどの金属類と一緒に携帯、保管するとショートすることがあります。
- 火のそばや炎天下などで充電したり、放置しない。
- バッテリーパックから漏れた液が目に入った場合は、きれいな水で洗った後、ただちに医師に相談してください。
- 本体付属または別売りのバッテリーパック以外は使用しないでください。

警告

バッテリーパックを廃棄する場合は、以下のご注意をお守りください。

- 地方自治体の条例などに従う。
- 一般ゴミに混ぜて捨てない。

または、ソニーサービスステーションにお持ちください。

本機の発熱についてのご注意

使用中に本体の底面やACアダプターが熱くなることがあります

CPUの動作や充電時の電流によって発熱していますが、故障ではありません。使用している拡張機器やソフトウェアによって発熱量は異なります。

本体やACアダプターが普段よりも異常に熱くなったときは

本機の電源を切り、ACアダプターの電源コードを抜き、バッテリーパックを取り外してください。次に、ITテクニカルレスポンスセンター修理窓口、または購入された販売店に連絡してください。

こんなことができます

VAIOノートが広げるモバイルワールド

本機はモバイル機器として十分な可搬性と、実際のモバイル環境での使いやすさを追求して設計された、ソニーならではのノートブックコンピューターです。

ここでは、本機の特長と、本機を使ってできることの例をあげてみましょう。

軽量コンパクト設計の本機を持ち運ぶ

B5ファイルサイズ、約1.35Kg(バッテリー含む)の軽量ボディーに、モバイル環境で便利な機能を満載しています。お気軽にどこへでも持ち運べます。

大容量タイプバッテリー(別売り)を装着することで、外出先での使用時間も、最大で約6時間確保できます。

情報を気軽に入力する

付属の「手書きメモ」や「手書きワープロ」ソフトウェアを使うと、付属のペンでメモを手書き入力できます。また、「ボイスメモ」ソフトウェアを使うと、声のメモを取ることもできます。

キーボードを打てない状態のときでも、大事な情報はのがしません。

プログラマブルパワーキーでワンアクション機能を実現する

付属の「PPK Setup」ソフトウェアを使うことで、プログラマブルパワーキーを押すだけで自動的に電子メールを受信するよう設定したり、音声メモができるよう設定したりできます。

とっさのときに便利な機能を割り当てておくと便利です。

タイマー機能を活用する

付属の「PPK Setup」ソフトウェアを使うことで、深夜に自動的に電子メールを取り込むように設定したりできます。「目覚ましメロディを再生して、その日のスケジュールを表示する」といった自動処理マクロを毎朝実行するよう登録することもできます。

いろいろな組み合わせを試して、自分ならではの活用法を見つけてみましょう。

サイバーショットから画像を取り込む

別売りのソニーデジタルスチルカメラ「サイバーショット」からケーブルをつなぐずに、赤外線通信で画像を高速に取り込みめます。

AV再生を楽しむ

付属の「Media Bar」ソフトウェアを使って、WAVEファイルやMIDIファイルといった、サウンドファイルを再生できます。

また、別売りのCD-ROMドライブをつなぐと、ビデオCDも再生できます。

インターネットを楽しむ

通信用のモデムを内蔵しているため、インターネットに接続して世界中の情報に接したり、電子メールをやり取りしたりできます。

ノートブックパソコンとしての特長

本機は軽量で、バッテリーで使用できるノートブックパソコンです。この特長を生かして、本機を使いこなしてください。

外出先でデータ収集

携帯電話やPHSとつないで、外出先でもインターネットに接続して情報収集したり、電子メールで情報交換できます。

旅行や出張のおともに

旅行先から家族・友人に電子メールを送信できます。旅の便りも電子メールで。その日のうちに新鮮な感動が届きます。

使用環境に合わせたバッテリー管理

付属の「PowerPanel」ソフトウェアを使えば、処理速度を優先したり、バッテリーの寿命を優先したりなどといった動作環境を簡単に設定できます。また、付属の「BatteryScope」ソフトウェアを同時に使うことで、バッテリーの使用可能時間なども同時に把握できます。これで「プレゼンテーション中に突然のバッテリー切れ」といった心配もありません。

マニュアルの使いかた

本書は、以下の4章で構成されています。

□ 操作編

パソコンを初めてお使いになる方は、「基本的な使いかた」からお読みください。一歩進んだ使いかたは「VAIOを使いこなす」をご覧ください。

□ 拡張編

プリンターなどの周辺機器のつなぎかたや、PCカードの使いかたなどについて説明しています。

□ セットアップ編

本機をお使いになる状況や好みに合わせて、本機の設定を変更できます。ここでは、付属のソフトウェアを使った設定のしかたを説明しています。

□ その他

本機をご使用になる際のご注意やお手入れのしかたなどについて説明しています。本機がうまく動作しないときは、「故障かな?と思ったら」をお読みください。

本機でできることの一部をご紹介します。それぞれ詳しくは右側の参照先の説明をご覧ください。

また、本機にどんなソフトウェアが付属されているかは、別冊の「付属ソフトウェア一覧」をご覧ください。

こんなことがしたい	詳しくは
インターネットやパソコン通信を楽しみたい	「インターネット/パソコン通信を楽しむ」(42ページ)
手軽にメモをとりたい	「情報をメモして活用する」(49ページ)
電話をかけたい	「電話/ファックスを使う」(61ページ)
ファックスを送りたい	「電話/ファックスを使う」(61ページ)
デジタルスチルカメラを使いたい	「デジタルスチルカメラを使う」(81ページ)
他のパソコンのデータを本機で使いたい	「他の機器とデータをやりとりする」(68ページ)

各ソフトウェアのオンラインヘルプを見るには

本機に付属しているソニー製のソフトウェアにもオンラインヘルプが添付されています。それぞれのオンラインヘルプの使いかたについて詳しくは、各ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

操作編

この章では、最初に本機の基本的な使いかたを、次にいろいろな目的にあった本機の使いかたを説明します。

第 1 章

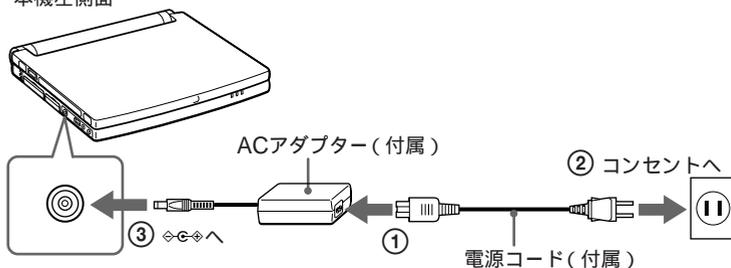
基本的な使いかた

電源を入れる

ここではAC電源につないだときの電源の入れかたについて説明します。バッテリーを使うときは、「バッテリーで使う」(39ページ)をご覧ください。

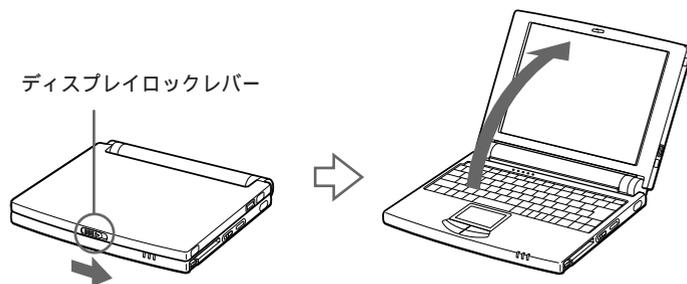
1 AC電源をつなぐ。

本機左側面



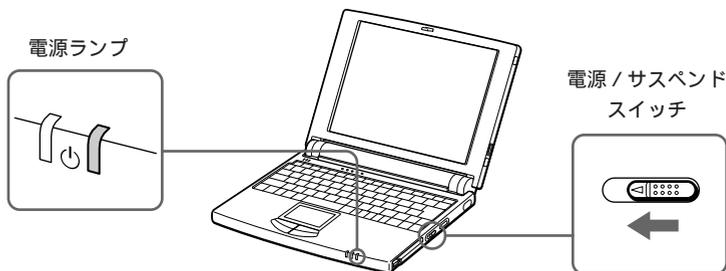
2 ディスプレイパネルを開く。

ディスプレイロックレバーを矢印の方向にずらしながら、ディスプレイパネルを開きます。



3 電源 / サスペンドスイッチを<の方向にずらし、電源ランプが点灯したらはなす。

本機の電源が入り、しばらくして、Windows 95が起動します。
初めて電源を入れたときは、Windows 95セットアップ画面が表示されます。Windows 95セットアップ画面については、別冊の「はじめにお読みください」をご覧ください。



電源を切るには

本機の電源を切るときは、次の手順で操作してください。

ご注意

以下の手順通りに電源を切らないと故障の原因になったり、作成した文書などのファイルが使えなくなったりすることがあります。

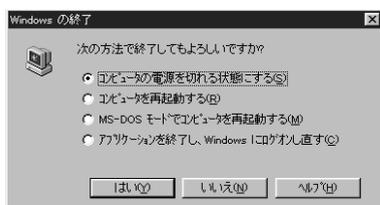
- 1 [スタート]ボタンをクリックする。
「スタート」メニューが表示されます。



次のページにつづく

2 メニューの[Windowsの終了]をクリックする。

「Windowsの終了」が表示されます。



3 「コンピュータの電源を切れる状態にする」をクリックして選び、つぎに[OK]をクリックする。

「しばらくお待ちください」と数秒表示されてから、本機の電源が自動的に切れます。

「スタート」メニューから[Windowsの終了]を選んでも電源が切れないときは

電源 / サスペンドスイッチを2秒間以上<の方向にずらしたままにして、電源が切れたら離します。ただし、この操作をすると作成したファイルが使えなくなることがあります。

💡 移動するときなどしばらく作業を中断するときや、翌日まで本機を使わないときなどは、サスペンドモードやSave To Diskモードを使うと便利です。詳しくは「バッテリーの消費電力を節約する」(104ページ)、「省電力動作モードについて」(108ページ)をご覧ください。

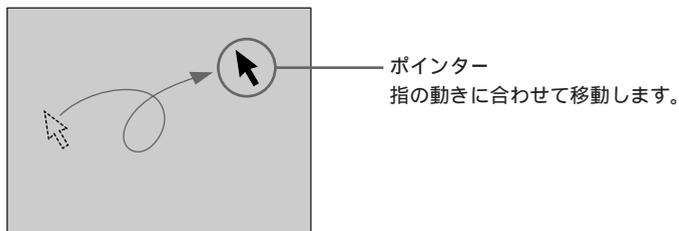
再起動するには

本機の設定を変更したり、アプリケーションソフトをインストールしたときなどは、本機を再起動する必要があります。

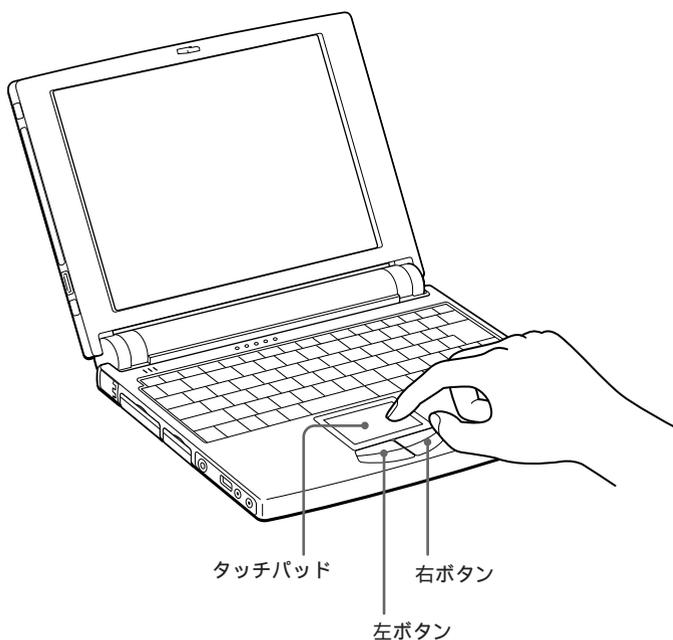
- 1** [スタート]ボタンをクリックする。
「スタート」メニューが表示されます。
- 2** メニューの[Windowsの終了]をクリックする。
「Windowsの終了」ウィンドウが表示されます。
- 3** 「コンピュータを再起動する」をクリックして選び、つぎに[OK]をクリックする。
「しばらくお待ちください」と数秒間表示されてから、本機が再起動します。

タッチパッドを使う

タッチパッドに触れて指を動かすと、画面上的ポインターも同じ方向に移動します。



ポインターを目的の位置まで動かして左または右のボタンを押すだけで、メニューを選んだりさまざまな命令をコンピューターに伝えることができます。



クリックする

ポインターを希望の位置に合わせて、タッチパッドの手前にある左ボタンを1回押します。

[OK]や[キャンセル]などのボタンを押したり、メニューを選ぶときなどに使います。

また、タッチパッドを指で1回軽くたたいても同じ働きをします。

ダブルクリックする

ポインターを希望の位置に合わせて、左ボタンを2回続けて押します。

ワードプロセッサや表計算などのソフトウェアを実行したり、作成した文書などのファイルを開くときなどに使います。

またタッチパッドを、2回続けて軽くたたいても同じ働きをします。

ドラッグする

ポインターを希望の位置に合わせて、左ボタンを押したまま、タッチパッド上で指を動かし、希望の位置でボタンを離します。

ファイルを移動したり、ウィンドウの大きさを変更するときなどに使います。

また、タッチパッドを2回続けて軽くたたき、そのままタッチパッド上で指を動かして希望の位置で離しても同じ働きをします。

右クリックする

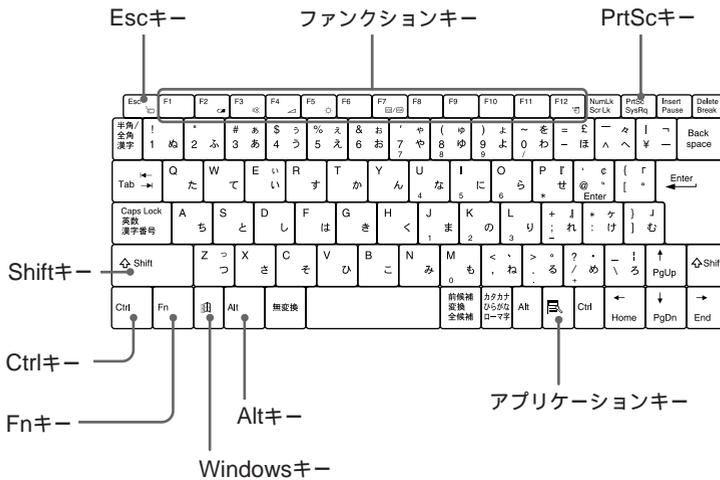
ポインターを希望の位置に合わせて、右ボタンを1回押します。

押したときのポインターの位置によって、さまざまな内容のポップアップメニューが表示されます。

キーボードを使う

キーボードを使って文字や記号を入力したり、パソコンへ命令を送ることができます。ここでは、他のキーと組み合わせて使う、特殊なキーのなまえと機能を紹介します。

文字の入力のしかたについては、「文字を入力する」(26ページ)をご覧ください。



なまえ

機能

ファンクションキー

使用するソフトウェアによって働きが異なります。

Ctrl(コントロール)キー

文字キーなどと組み合わせて使うと、特定の機能を実行します。使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくはソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

例)Ctrlキーを押しながら、Sキーを押す。
メニューから「保存する」を選ばずに、
ファイルを保存できます。

なまえ	機能
Alt(オルト)キー	<p>文字キーなどと組み合わせて使うと、特定の機能を実行します。オルタネートキーともいいます。</p> <p>使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくはソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。</p> <p>例) Altキーを押しながら半角/全角キーを押す。押すたびに入力する文字を漢字または英数字に切り換えます。</p>
Shift(シフト)キー	<p>文字キーと組み合わせて使うと、大文字を入力できます。また、文字キーと他の機能キーと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。</p>
Windowsキー 	<p>Windows 95の「スタート」メニューが表示されます。</p> <p>他のキーと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくはソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。</p> <p>「Windowsキーとの主な組み合わせと機能」(139ページ)をご覧ください。</p>
アプリケーションキー 	<p>タッチパッドの右ボタンを押したときと同じ働きをします。</p>
Fn(エフエヌ)キー	<p>キーボード上で紫色で表記されている機能を使うとき、このキーと組み合わせて押します。また、ファンクションキー(F1からF12キー)などと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。</p> <p>「Fnキーとの主な組み合わせと機能」(140ページ)をご覧ください。</p>
Esc(エスケープ)キー	<p>設定を取り消したり、実行を中止するときなどに押します。</p>
PrtSc(プリントスクリーン)キー	<p>表示されている画面を取り込みます。取り込んだ画像は「ペイント」などのソフトウェア上に貼りつけられます。詳しくはソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。</p>

文字を入力する

ここでは、文字の入力のしかたについて説明します。文字を入力するにはキーボードを使います。本機に付属している、「ワードパッド」という文章を作成するためのソフトウェアを使って、文字入力を練習してみましょう。キーボード上の各キーの名前と働きについて詳しくは、「キーボードを使う」(24ページ)をご覧ください。

日本語入力のまえに

ここでは、ワードパッドを起動して、日本語を入力できるようにするまでの手順を説明します。

1 ワードパッドを起動する

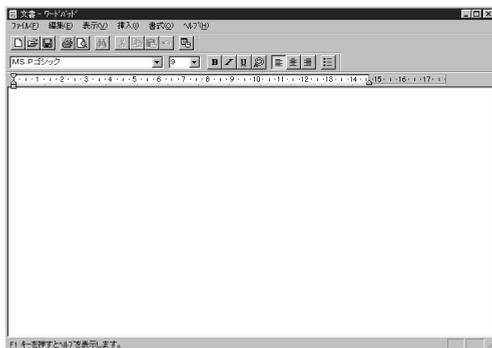
まず、ワードパッドを起動します。

- 1 [スタート]ボタンをクリックする。
スタートメニューが表示されます。



- 2 [プログラム]をクリックして、ポインターを[アクセサリ]に合わせてから、[ワードパッド]をクリックする。

ワードパッドが起動し、文字を入力する画面が表示されます。



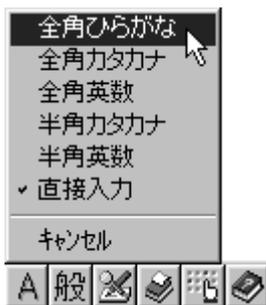
2 日本語入力を選ぶ

キーボード上の各キーにはアルファベットやひらがなが印刷されていますが、ただキーを押しても、漢字やカタカナは入力できません。

日本語を入力するためには、画面に表示されているMS-IME97のツールバーを使って、入力文字を切り換える必要があります。



- 1 MS-IME97ツールバーのいちばん左側の[A]をクリックする。
文字入力選択メニューが表示されます。



- 2 [全角ひらがな]をクリックする。
画面上に表示されているツールバーのいちばん左側の表示が[A]から[あ]に変わり、日本語を入力できるようになります。



[A]から[あ]に変わる。

ツールバーが表示されていないときは
タスクバーの右側にあるをクリックして、「ツールバーを表示」をクリックしま
す。
ツールバーについて詳しくは、付属のWindows 95の取扱説明書をご覧ください。

入力のしかたを選ぶ

日本語を入力する方法として、ローマ字入力方式とかな入力方式がありま
す。お好みにあわせて、入力方法を選んでください。

なお、お買い上げ時は、ローマ字入力に設定されています。

ローマ字入力

キーボード上のアルファベットを組み合わせ、ローマ字で日本語を入力
する方法です。1文字を入力するために2つのキーを組み合わせるので、操
作が多少めんどうですが、英文タイプライターに慣れているかたはこちら
が便利です。

かな入力

キーボード上の各キーに印刷されているひらがなを使って、日本語を入力
する方法です。1文字につき1つのキーを押せばよいので操作は楽ですが、
50音それぞれのキーの配置を覚える必要があります。

かな入力とローマ字入力を切り換える

Ctrlキーを押しながら、英数キーを押す。

ローマ字入力とかな入力とが切り換わります。

かな入力



Ctrlキーを押しながら英数キーを押す。

ローマ字入力



文字を入力する

ここでは、具体的な文字の入力のしかたを説明します。
例として、「世界中にひろがったVAIOノート」という言葉を入力してみます。

1 漢字を入力する

1 「世界中に」の読みを入力する。



- ローマ字入力の場合
S、E、K、A、I、J、U、U、N、Iの順にキーを押します。
- かな入力の場合
せ、か、い、し、`（濁点）ゆ（Shiftキーを押しながら「ゆ」を押します）う、に、の順にキーを押します。
キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

2 スペースキーを押す。



入力した読みにはまる漢字が表示されます。
まちがった漢字が表示されたときは、正しい漢字が表示されるまで、何回かスペースキーを押します。

3 Enterキーを押す。



変換が確定します。

間違って入力したときは
次のキーを使って修正します。

Backspaceキー：カーソルの直前の1字を消し、カーソルの位置が戻ります。

Deleteキー：カーソルのある位置の1字を消します。

Escキー：確定していない文字をすべて消去します。

2 ひらがなを入力する

1 「ひろがった」の読みを入力する。



- ローマ字入力の場合
H、I、R、O、G、A、T、T、Aの順にキーを押します。
- かな入力の場合
ひ、ろ、か、`（濁点）っ（Shiftキーを押しながら「つ」を押します）た、の順にキーを押します。
キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

2 Enterキーを押す。



変換する必要がないので、スペースキーを押す必要はありません。

3 英字を入力する

- 1 MS-IME97のツールバーのいちばん左側の[あ]をクリックして、[半角英数]を選ぶ。



ツールバーのいちばん左側が[A]になり、アルファベットが入力できる状態になります。

- 2 Shiftキーを押しながら、V、A、I、Oの順にキーを押す。



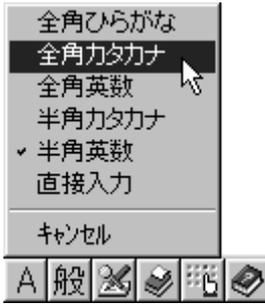
- 3 Enterキーを押す。



アルファベットの小文字や数字を入力するときは、Shiftキーを押す必要はありません。

4 カタカナを入力する

- 1 MS-IME97のツールバーのいちばん左側の[A]をクリックして、[全角カタカナ]を選ぶ。



ツールバーのいちばん左側が[ア]になり、カタカナが入力できる状態になります。

- 2 「ノート」の読みを入力する



- ローマ字入力の場合
N、O、-（長音、キー）、T、Oの順にキーを押します。
- かな入力の場合
の、（長音、キー）との順にキーを押します。
キーを押すごとに、カーソルが文字の入力位置に動きます。

3 Enterキーを押す。



変換する必要がないので、スペースキーを押す必要はありません。

これで「世界中にひろがったVAIOノート」と入力できました。
キーボード上にはない文字や記号の入力のしかたや、漢字に変換する文節の位置の調節のしかたなどについて詳しくは、付属のWindows 95の取扱説明書をご覧ください。

フロッピーディスクを使う

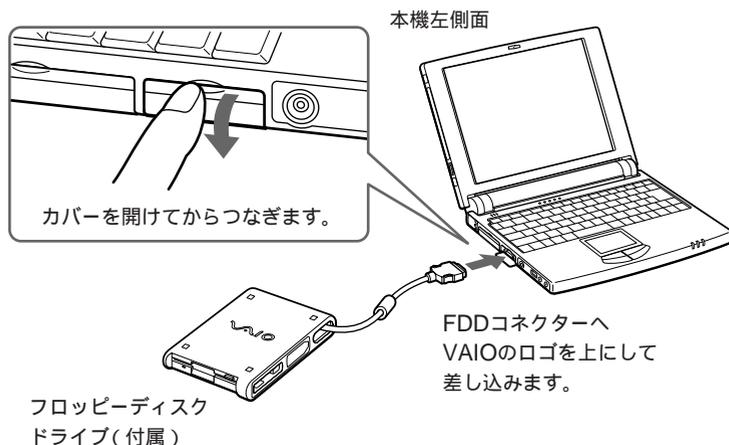
フロッピーディスクは、薄くて軽い、手軽に取り扱うことのできる記録メディアです。

ここでは、フロッピーディスクドライブの取り付けかたや、フロッピーディスクの取り扱いについて説明します。

フロッピーディスクドライブを取り付ける

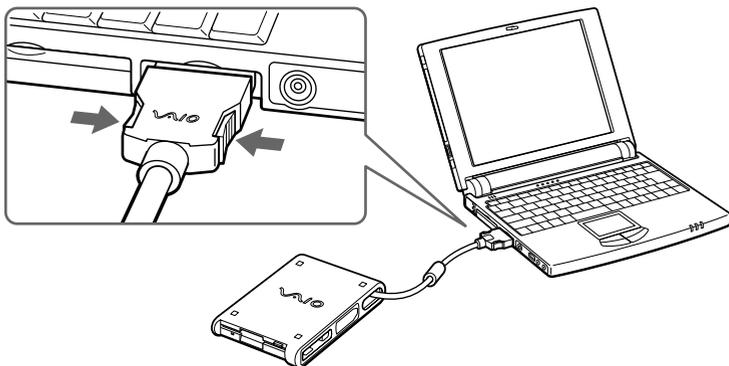
フロッピーディスクドライブのケーブルを本機につないで、フロッピーディスクドライブ(付属)を本機に接続します。

本機の電源を切ってから接続してください。

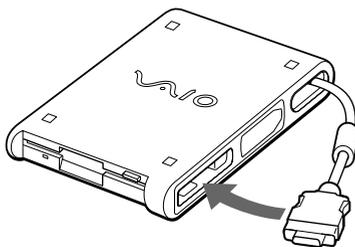


電源を入れると、フロッピーディスクドライブは自動的に認識されます。

フロッピーディスクドライブを取りはずすには
本機の電源を切ってから、コネクターの両端をつまんでケーブルをはずし
ます。

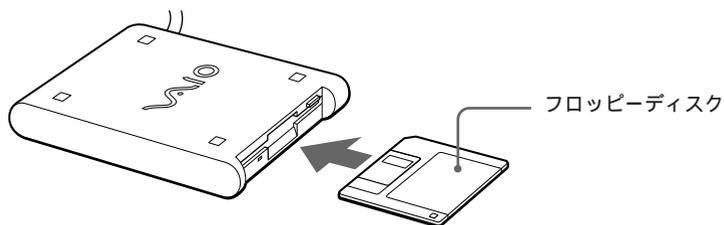


フロッピーディスクドライブを持ち運ぶときは
取りはずしたあとは、ケーブルをフロッピーディスクドライブ側面にはめ
込むと、ケーブルが邪魔になりません。



フロッピーディスクを入れる

フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに入れます。



本機で使うフロッピーディスクは、あらかじめ初期化しておく必要があります。市販されているフロッピーディスクをお使いになるときは、「DOS/V 1.44MBフォーマット済」のものをご購入ください。初期化する必要がなくなります。

その他、本機で使えるフロッピーディスクについて詳しくは、次ページの「使用できるフロッピーディスク」をご覧ください。

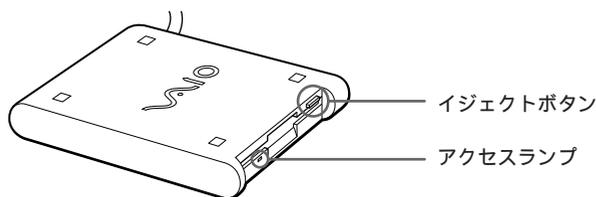
フロッピーディスクの初期化について詳しくは、Windows 95の取扱説明書をご覧ください。

フロッピーディスクを取り出すには

ディスクドライブのアクセスランプが点灯していないことを確認してから、イジェクトボタンを押します。

ご注意

アクセスランプが点灯しているときにイジェクトボタンを押すと、ディスクの破損の原因となります。



イジェクトボタンを押してもフロッピーディスクが取り出せないときはフロッピーディスクドライブを取りはずして、ITテクニカルレスポンスセンターにご連絡ください。

データを書き込み禁止にする

大切なデータを誤って消してしまうことのないように、フロッピーディスクには書き込み禁止のタブがついています。このタブを上下に動かして、フロッピーディスクを書き込み可能に、あるいは書き込み禁止にできます。

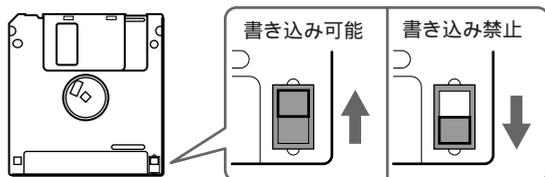
□ 書き込み可能

データを書き込みが可能な状態です。

□ 書き込み禁止

穴が見える位置にタブをスライドさせると、書き込み禁止の状態になります。データの読み出しはできますが、書き込みはできません。

フロッピーディスク裏面



使用できるフロッピーディスク

3.5型フロッピーディスクには、2HD(両面高密度)タイプと2DD(両面倍密度倍トラック)タイプのものであり、フォーマットによって2HD 1.44Mバイト、2DD 720Kバイト、2HD 1.2Mバイトの3種類に分けることができます。

本機はこれらのフロッピーディスクに対応しています。

種類	本機でできること
2HD 1.44Mバイト	フォーマット、読み書きともに可。
2DD 720Kバイト	フォーマット、読み書きともに可。
2HD 1.2Mバイト	読み書きともに可。 FORMAT、SYS、DRVSPACE(ドライブスペース)、DISKCOPYコマンドは実行不可。

ご注意

- データを保存するときは、2HD 1.44Mバイトまたは2DD 720Kバイトタイプのフロッピーディスクをご使用ください。
- 他のパソコンとデータのやりとりをする場合は、下記のフロッピーディスクをご使用ください。

データをやりとりしたいパソコンの フロッピーディスクドライブの種類	使用するフロッピーディスク
1.44Mバイトの フロッピーディスクドライブ	2HD 1.44Mバイトまたは 2DD 720Kバイト
1.2Mバイトの フロッピーディスクドライブ	2HD 1.2Mバイトまたは 2DD 720Kバイト

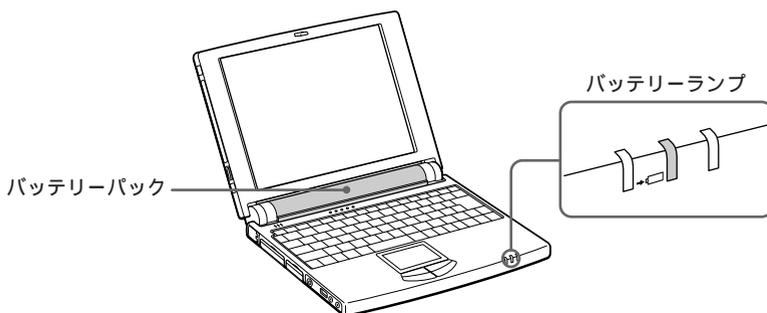
- 市販のアプリケーションソフトはフロッピーディスクの種類に関係なく作られています。一部のソフトウェアには2HD 1.44Mバイトおよび2DD 720Kバイト専用で作られているものがあります。これらのソフトウェアから2HD 1.2Mバイトのフロッピーディスクに読み書きを行ったときは、一部の機能が正しく動作しない場合があります。

バッテリーで使う

充電したバッテリーパックを本機に装着していると、AC電源につながなくても本機を使えます。別売りの大容量タイプのバッテリーパック（PCGA-BP52）を取り付けることもできます。

ご注意

- 出荷時に装着されているバッテリーは完全には充電されていないため、はじめてお使いになるときからバッテリーが消耗している状態になっていることがあります。
- バッテリーの残量がわずかになると、自動的にSave To Diskモードになりますが、このとき、作業中の文書が失われることがあります。
詳しくは、「省電力動作モードについて」(108ページ)をご覧ください。



バッテリーランプについて

本機の動作状態を示します。

点灯	バッテリー動作中
はやく点滅	バッテリーの残量が少ない状態
ゆっくり点滅	バッテリー充電中
消灯	バッテリー切れ、またはAC電源で動作中



- 完全に充電したバッテリーで約1.5～3時間(標準タイプ)、3～6時間(大容量タイプ)使用できます。バッテリーの使用時間について詳しくは、「バッテリーの残量を確認する」(110ページ)をご覧ください。
- AC電源につないでいるときは、バッテリーパックを装着しているときでも、AC電源から電源が供給されます。
- バッテリーで長時間使うには
付属の「PowerPanel」ソフトウェアを使って本機の動作モードを節電モードに変更することで、バッテリーの使用時間をのばすことができます。詳しくは「バッテリーの消費電力を節約する」(104ページ)をご覧ください。
- バッテリーの残量を確認するには
付属の「BatteryScope」ソフトウェアを起動すると、バッテリーの残量と予想使用時間を確認できます。詳しくは「バッテリーの残量を確認する」(110ページ)をご覧ください。

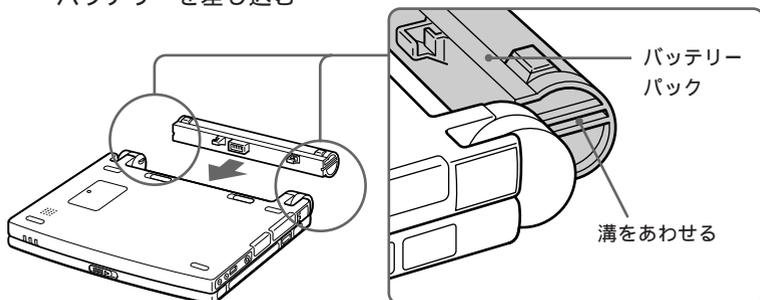
バッテリーパックを取り付ける

本機後面のバッテリー取り付け部にバッテリーパックを取り付けます。

- 1** 本機底面のロックレバーが解除されている(外側にある)ことを確認する。



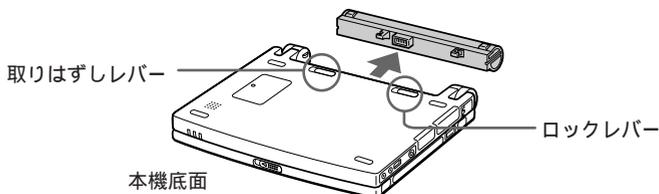
- 2** 本機後面とバッテリー両端の溝をあわせ、カチッと音がするまでバッテリーを差し込む



- 3** ロックレバーを内側にずらして、バッテリーを固定する。

バッテリーパックを取りはずすには

- 1 本機の電源を切る。
- 2 ロックレバーを外側にずらす。
- 3 取りはずしレバーを外側にずらして、バッテリーを取りはずす。



ご注意

- ACアダプターをつないでいない状態で、本機の電源を入れたままバッテリーを取りはずすと、作業中のデータが失われることがあります。
- 本機がサスペンドモードのときにバッテリーを取りはずすと、データが失われることがあります。

バッテリーを充電する

本機をAC電源につないでいれば、本機を使ってもバッテリーは充電されます。充電中は、バッテリーランプがゆっくり点滅します。

バッテリーの残量が空の状態から充電されるまでに約1.5時間かかります（約85%充電、使用状況による）。

バッテリーが約85%まで充電されると、バッテリーランプは消灯します。

約85%まで充電されたバッテリーは、約1時間後に完全に充電されます。

VAIOを使いこなす

インターネット/パソコン通信を楽しむ

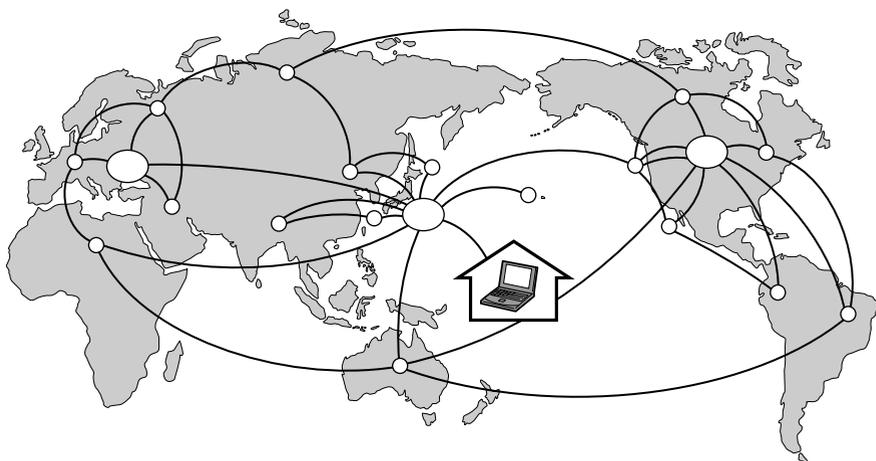
本機には電話回線に接続して通信を行うためのモデムが内蔵されているので、電話回線につないでインターネットやパソコン通信を楽しむことができます。

「インターネット」とは？

世界中のコンピューターがつながった、地球規模のネットワークのことです。インターネットにつながったパソコンを使うことで、世界中の情報を入手したり、世界にむけて自分の情報を発信したりすることができます。電子メールを利用すれば、ほとんど同時に国内だけでなく、世界中の友人・知人に連絡を取ることもできます。

インターネットを利用して、以下のようなことができます。

- ホームページを見る
- 自分のホームページをつくって公開する
- 電子メールをやり取りする
- オンラインショッピングをする



「パソコン通信」とは？

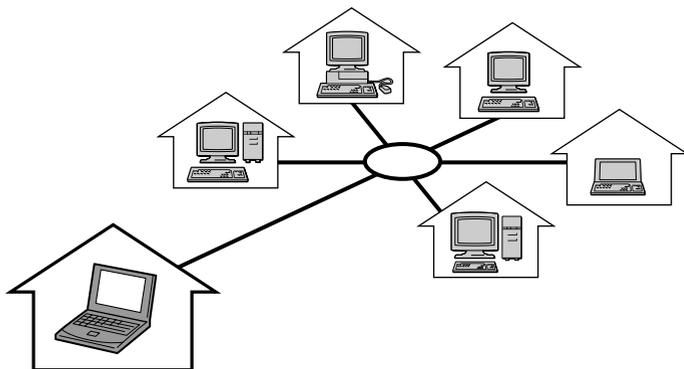
パソコン通信には運営主体である大手の運営会社が多数設立されていて、多くの人が参加しています。

パソコン通信の良いところは、自分の興味のある分野の電子会議室を利用することで、同じように興味を持っている人と、ネットワーク上で交流を深めることができる点です。このような会議室は、さまざまな分野で開設されています。また、ネットワーク上の商店を利用したオンラインショッピングも楽しめます。

「地球規模のインターネット」に対して、「生活に密着した地域中心」を方針としている小規模なパソコン通信のネットワークもあります。また、現在ではパソコン通信を通してインターネットにつなぐこともできるようになりました。

パソコン通信を利用して、以下のようなことができます。

- フォーラムなどの電子会議室に参加する
- 有料データベース、オンラインショッピングを使う
- 電子メールをやり取りする



インターネットを楽しむには

世界中の情報に接することのできるインターネットですが、インターネット自体は電話回線のように、ケーブルがつながったものでしかありません。情報を受け取ったり、発信したりするためには専用のソフトウェアが必要になります。

また、電話回線を通してインターネットにつなぐために、インターネットサービスプロバイダー（以下、「プロバイダー」と略します）という接続業者と契約する必要があります。

プロバイダーについて

現在では数多くのプロバイダーがありますので、料金やサービスの内容をご検討のうえで、ご自分にあったプロバイダーと契約するようおすすめします。料金やサービスの内容について詳しくは、それぞれのプロバイダーにお問い合わせください。また、契約時にクレジットカードが必要になるプロバイダーもあります。クレジットカードをお持ちでないときは、クレジットカードなしで契約できるプロバイダーをお探してください。

準備1 電話回線につなぐ

本機に内蔵しているモデムを電話回線につなぎます。
詳しくは「内蔵モデムを電話回線につなぐ」(76ページ)をご覧ください。

準備2 インターネットサービスプロバイダーと契約する

本機にはソニーコミュニケーションネットワーク(株)の運営する、So-netのスターターキットが付属しています。このスターターキットを利用すると、契約とそのあとの設定をより簡単に行えます。詳しくは付属の「会員募集のご案内」をご覧ください。

準備3 接続のための設定をする

プロバイダーと契約したあとの設定内容は、プロバイダーの指示にしたがってください。

パソコン通信を楽しむには

パソコン通信を楽しむためには、パソコン通信の運営会社と契約する必要があります。

会員が多い、自分の興味・関心のある分野に詳しい人が多く参加している、どうしても利用したいサービスがある、などといった基準で運営会社を選ぶと、よりパソコン通信を楽しめます。

パソコン通信の運営会社について

現在では数多くのパソコン通信の運営会社がありますので、料金やサービスの内容をご検討のうえで、ご自分にあった運営会社と契約するようおすすめします。料金やサービスの内容について詳しくは、それぞれの運営会社にお問い合わせください。

また、契約時にクレジットカードが必要になる運営会社もあります。クレジットカードをお持ちでないときは、クレジットカードなしで契約できる運営会社をお探してください。

準備1 電話回線につなぐ

本機に内蔵しているモデムを電話回線につなぎます。
詳しくは「内蔵モデムを電話回線につなぐ」(76ページ)をご覧ください。

準備2 パソコン通信の運営会社と契約する

本機には、パソコン通信運営会社の、パソコン通信のスターターキットが付属しています。このスターターキットを利用すると、契約とそのあとの設定をより簡単に行えます。
詳しくは付属の「付属ソフトウェア一覧」をご覧ください。

外出先でインターネット/パソコン通信にアクセスする

ここでは、外出先でインターネットやパソコン通信にアクセスする方法の概略を説明します。外出先でアクセスできるようにしておくと、外出先でどうしても電子メールを送信したいときや、電子メールを確認したいときに便利です。

外出先でインターネット/パソコン通信にアクセスするには、4通りの方法があります。

- 公衆電話を使ってアナログ接続する
- 公衆電話を使ってISDN接続する
- デジタル携帯電話を使って接続する
- PHSを使って接続する

公衆電話を使ってアクセスする



デジタル携帯電話やPHSを使ってアクセスする



公衆電話を使ってアナログ接続する

本機はモデムを内蔵しているので、モジュラージャックのある公衆電話に直接つなげます。

テレホンコードとモジュラージャック付きの電話機さえあれば、どこからでもアクセスできますが、アナログ接続のため、使用する電話機によってはすぐに接続が切れてしまうことがあります。

1 本機と電話機をテレホンコードでつなぐ。

2 電話機の「データ通信」ボタンを押す。

3 テレホンカードを入れる。

4 通信用のソフトウェアを起動する。

これでインターネット/パソコン通信にアクセスできます。

通信を終了するとき

次の2つの方法があります。使用するソフトウェアにあわせて使い分けてください。

- タスクバーの通信インジケータをタッチパッドの右ボタンでクリックして、ショートカットメニューを表示させてから、[切断] を選ぶ。
- 通信用ソフトウェアで、通信を終了するコマンドを実行する。

公衆電話を使ってISDN接続する

ISDNのTA(ターミナルアダプター)カードを本機に装着してモジュラージャックのある公衆電話につなぐと、外出先でもISDN経由で接続できます。

通信速度が速く(最大64kbps)、安定した状態でアクセスできますが、市販のISDNのターミナルアダプターカードが必要です。

ご注意

アクセスしようとしているプロバイダーがISDNに対応しているかどうかをあらかじめ確認しておいてください。プロバイダーによっては通常のアナログ接続用とISDN接続用で、異なる電話番号を用意していることがあります。

デジタル携帯電話を使って接続する

本機をデジタル携帯電話に接続して、インターネット/パソコン通信にアクセスできます。

デジタル携帯電話が使えるところではどこからでも、また移動中でもアクセスできますが、通信速度が遅く(9600 bps)、携帯電話にあわせた接続キットが必要です。

ご注意

接続キットや接続のしかたについて詳しくは、電話会社にお問い合わせください。

PHSを使って接続する

本機をPHSに接続して、インターネット/パソコン通信にアクセスできません。

通信速度が速く(最大32kbps)、PHSが使えるところではどこからでもアクセスできますが、PHSにあわせた接続キットが必要です。また、PIAFS方式で接続するときは、契約しているプロバイダーなどがPIAFSに対応している必要があります。

ご注意

- 接続キットや接続のしかたについて詳しくは、電話会社にお問い合わせください。本機のPCカードスロットに直接装着できるPHSもあります。
- PIAFS方式でアクセスするときは、接続しようとしている電話番号がPIAFS方式に対応しているかどうかをあらかじめ確認しておいてください。

外出先で使うときのヒント

アクセスする前に「PowerPanel」を起動し、「通信」プロファイルを選んでおくと、通信に必要な機能を停止するのでバッテリーの消費電力を節約できます。「通信」プロファイルは初期設定時には画面に表示されませんので、表示するように設定する必要があります。

詳しくは、「PowerPanel」のヘルプをご覧ください。

また、プログラマブルパワーキーに電子メールソフトの起動からメールの確認までを登録しておく、ボタン1つで電子メールの確認ができるので便利です。詳しくは、「ワンタッチで電子メールを確認する」(58ページ)をご覧ください。

情報をメモして活用する

本機のメモ機能について

本機には、情報を気軽にメモして活用するために、次の3種類のソフトウェアが付属しています。

- 手書きメモ：絵や地図をメモをとるときに便利です。(50ページ)
- 手書きワープロ：文字を中心にメモをとるときに便利です。(51ページ)
- ボイスメモ：音声でメモをとるときに便利です。(53ページ)

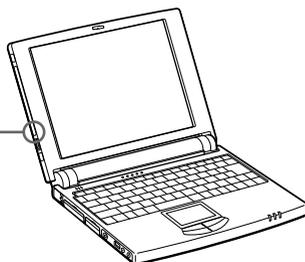
「手書きメモ」と「手書きワープロ」ソフトウェアでは、本機に付属しているペンを使ってメモをとれます。

また、「ボイスメモ」ソフトウェアでは、本機に内蔵マイクに向かって話すことで、必要な情報を録音できます。

付属のペンの使いかた

ペンは、本機の液晶ディスプレイパネルの左側面に内蔵されています。液晶ディスプレイパネルの左側面にあるペン取り出しボタンを押すと、ペンがペンホルダーに入った状態で出てきます。

この部分を押しして取り出す



ご注意

ペンをなくさないために、使い終わったら必ずペンホルダーに戻すようにしてください。

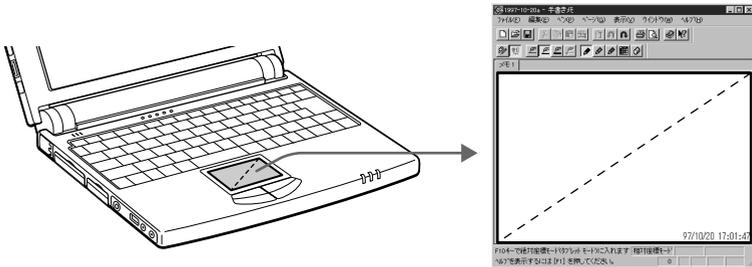
手書きの絵メモをつくる(手書きメモ)

ちょっとおいしいレストランの場所をメモしておきたいときなどに、文字では表現しにくい地図などでも簡単にメモしておくことができます。

1 [スタート]ボタンをクリックし、[VAIO]にポインターを合わせ、[ステーションリ]を選び、[手書きメモ]をクリックする。
「手書きメモ」が起動します。

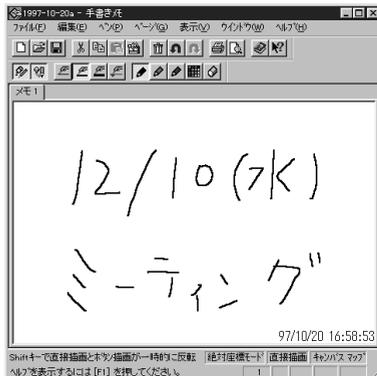
2 F10キーを押す。

手書きメモが絶対座標モードになり、タッチパッドと画面上のメモ帳が下図のように対応するようになります。



絶対座標モードではツールバーのボタンをクリックしたり、メニューからコマンドを選んだりできなくなるので、その場合はもう1度F10キーを押して、相対座標モード(普通の状態)に戻してください。

3 ペンを使ってタッチパッド上に図形や文字をゆっくり書く。
ペンの動きに合わせて、手書きメモのメモ帳に図形や文字が記入されます。



- 4** 手書きメモを終了するときは、F10キーを押して絶対座標モードにしてから、[ファイル]メニューから[アプリケーションの終了]を選ぶ。

終了するまえに、作成したメモをデスクトップに貼りつけることもできます。詳しくは「作成したメモをデスクトップに貼りつける」(54ページ)をご覧ください。

また、手書きメモを使いこなすために、「手書きメモ」のヘルプもあわせてご覧ください。

図形や文字を消すには

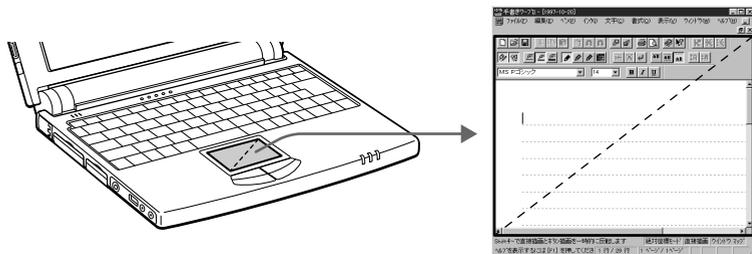
図形や文字の全体を1度に消したり、部分的に消せます。

- 全体を1度で消す
「編集」メニューから[削除]を選びます。
- 部分的に消す
「ペン」メニューから[背景色]を選び、消したい部分をなぞります。

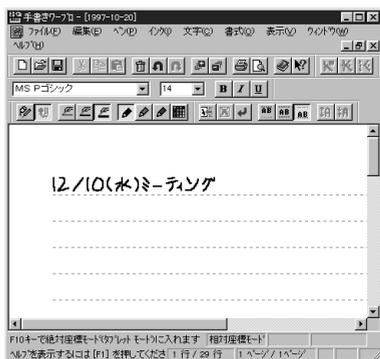
手書き文字で記録をとる(手書きワープロ)

ちょっとしたメモをとりたいときなどに、キー入力の苦手な人でも手軽にメモをとれます。

- 1** [スタート]ボタンをクリックし、[VAIO]にポインターを合わせ、[ステーションリ]を選び、[手書きワープロ]をクリックする。
「手書きワープロ」が起動します。
- 2** F10キーを押す。
手書きワープロが絶対座標モードになり、タッチパッドと画面上のメモ帳が下図のように対応するようになります。



- 3** ペンを使ってタッチパッド上に文字をゆっくり書く。
1文字ずつ、またはいくつか文字をまとめて書くこともできます。
タッチパッドからペンを一定時間離すと書いた文字が確定され、自動的に大きさが変換されて記入されます。



キーボードを使って入力することもできます。

- 4** 手書きワープロを終了するときには、F10キーを押して絶対座標モードにしてから、[ファイル]メニューから[アプリケーションの終了]を選ぶ。
手書きワープロを使いこなすために、「手書きワープロ」のヘルプもあわせてご覧ください。

👁️ 好みに合わせて、線の色や幅を変えられます
「ペン」メニューからペンの色やペン幅を選びます。

文字を消すには

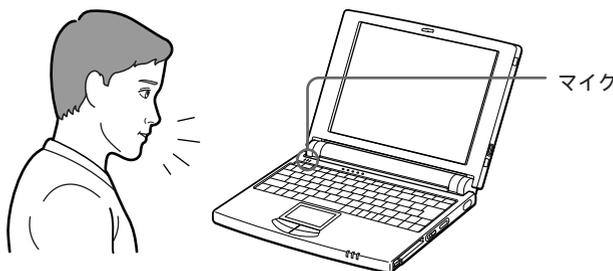
BackspaceキーまたはDeleteキーを押す。

複数の文字を1度にまとめて書いたときは、そのブロックごとに文字が消えます。

音声でメモをとる(ボイスメモ)

電話中にとっさに番号をメモしたいというときなど、相手の言う電話番号を本機の前で復唱するだけで簡単にメモがとれます。

- 1 [スタート]ボタンをクリックし、[VAIO]にポインターを合わせ、[ステーションナリ]を選び、[ボイスメモ]をクリックする。
「ボイスメモ」が起動し、画面右下にが表示されます。
- 2 画面右下のをダブルクリックし、本機のマイクに向かって話します。
ラベルが表示され、音声が録音されます。最大で60秒間の録音ができます。



- 3 録音を終了するときには、をクリックする。
録音の終了したラベルは、画面上の好きな場所に配置できます。

メモを再生するには

ラベルをクリックし、をクリックする。
録音したメモが再生されます。再生を一時停止するにはを、終了するにはをクリックします。

メモを消すには

消したいラベルをタッチパッドの右ボタンでクリックし、[ラベルの削除]をクリックする。
ラベルが消去されます。



録音したメモに、「手書きメモ」で作成した文書やビットマップファイルなどの絵を貼り付けることもできます。詳しくは、「ボイスメモ」のヘルプをご覧ください。

作成したメモをデスクトップに貼りつける

「手書きメモ」と「ボイスメモ」ソフトウェアで作成したメモを、デスクトップに貼りつけておくことができます。
デスクトップに貼りつけられたメモを、「ラベル」と呼びます。



貼りつけられたメモ

手書きメモで作成したメモをラベルとして貼りつけたいときは、手書きメモのツールバー内にある  をクリックします。
ボイスメモでは、録音したメモは自動的にラベルとして、デスクトップに貼りつけられます。

手書きメモのラベルの内容を確認する

- 1 確認したいラベルにポインターを合わせてからタッチパッドの右ボタンをクリックする。
- 2 手書きメモを確認したいときは、[手書きメモ]にポインターを合わせ、[手書きメモの起動]をクリックする。
手書きメモが起動し、選んだラベルの内容を確認できます。

ボイスメモのラベルの内容を確認する

ラベルをクリックし、▶をクリックする。

ラベルを削除する

確認したいラベルにポインターを合わせてからタッチパッドの右ボタンをクリックし、[ラベル削除]をクリックします。



手書きメモのラベルに音声を追加したり、ボイスメモのラベルに文字や画像データを追加したりすることもできます。詳しくはヘルプをご覧ください。

好みのソフトウェアを自動的に起動する

ワンタッチで好みのソフトウェアを起動する

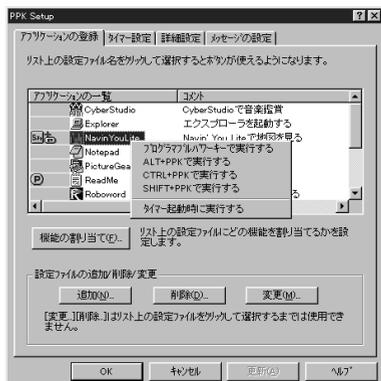
「PPK Setup」ソフトウェアを使うことにより、プログラマブルパワーキーを押すだけで、好みのソフトウェアやスクリプトファイルを起動できます。



プログラマブルパワーキー

ワンタッチで好みのソフトウェアを起動できるので、すぐに起動したいソフトウェアを割り当てておく便利です。ここでは初期設定で用意されているソフトウェアを選ぶ手順について説明します。

- 1 画面右下の  をダブルクリックする。
「PPK Setup」が表示されます。
- 2 「アプリケーションの一覧」から好みのソフトウェアを選び、タッチパッドの右ボタンをクリックする。
「設定メニュー」が表示されます。



3 [プログラマブルパワーキーで実行する]をクリックする。

手順2で選んだソフトウェアに**P**が表示されます。

4 [OK]をクリックする。

これで設定は終わりです。本機右側面のプログラマブルパワーキーを押すと、設定したソフトウェアが起動します。

「アプリケーション一覧」に入っていないソフトウェアを指定したいときは[追加]をクリックしてから、好みのソフトウェアを指定します。詳しくは、「PPK Setup」のヘルプをご覧ください。

ご注意

初期設定では、液晶ディスプレイパネルを閉じているときにプログラマブルパワーキーを押しても、指定したソフトウェアは起動しません。

ディスプレイパネルを閉じているときでも起動したいときは、「PPK Setup」画面の[詳細設定]タブをクリックし、「液晶パネルが閉じた状態では使用できないように設定する」のチェックをはずします。

本機をかばんに入れて持ち運んでいるときなどに、誤ってプログラマブルパワーキーを押してしまい、ソフトウェアが起動してしまうこともありますので、ご注意ください。

プログラマブルパワーキーと他のキーとの組み合わせについてプログラマブルパワーキーと他のキーを組み合わせることで、好みのソフトウェアを起動することもできます。

前ページの手順2で表示される「設定メニュー」で、組み合わせを選びます。

「プログラマブルパワーキーで実行する」

本機右側面のプログラマブルパワーキーを押すだけで、好みのソフトウェアが起動します。

本機の電源が入っていないときでも、キーを押すと自動的に本機の電源が入り、好みのソフトウェアが起動します。

「ALT+PPKで実行する」

本機の電源が入っているときに、Altキーを押しながらプログラマブルパワーキーを押すと、好みのソフトウェアが起動します。

「CTRL+PPKで実行する」

本機の電源が入っているときに、Ctrlキーを押しながらプログラマブルパワーキーを押すと、好みのソフトウェアが起動します。

「SHIFT+PPKで実行する」

本機の電源が入っているときに、Shiftキーを押しながらプログラマブルパワーキーを押すと、好みのソフトウェアが起動します。

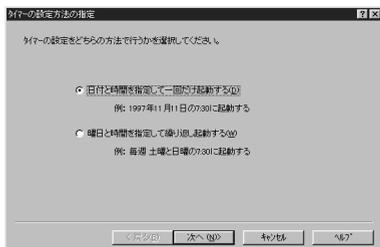
内蔵タイマーで好みのソフトウェアを起動する

内蔵タイマーを使うと、本機が①通常の動作状態のとき、②スタンバイモードのとき、③サスペンドモードのときに、好きな時刻に好みのソフトウェアを起動できます。

プログラマブルパワーキーにソフトウェアを割り当てるときと同様に、スクリプトファイルを好みの時刻に実行することもできます。

スタンバイモードやサスペンドモードについて詳しくは、「省電力動作モードについて」(108ページ)をご覧ください。

- 1 画面右下のをダブルクリックする。
「PPK Setup」が表示されます。
- 2 「アプリケーションの一覧」からタイマーで起動したいソフトウェアを選び、タッチパッドの右ボタンをクリックする。
- 3 [タイマー起動時に実行する]をクリックする。
手順2で選んだソフトウェアにが表示されます。
- 4 [タイマー設定]タブをクリックする。
- 5 [タイマー設定]をクリックする。
「タイマーの設定方法の指定」が表示されます。



「日付と時間を指定して一回だけ起動する」を選ぶと設定した1回のみ、「曜日と時間を指定して繰り返し起動する」を選ぶと、毎週決まった時間にタイマーが起動します。

- 6 [次へ>]をクリックする。
タイマー起動時刻を設定します。
手順5で「日付と時間を指定して一回だけ起動する」を選んだときは日付と時刻を、「曜日と時間を指定して繰り返し起動する」を選んだときは曜日と時刻を設定します。

7 [次へ>]をクリックする。

8 [完了]をクリックする。

これで設定は終わりです。

 自動的にソフトウェアを起動したあと、本機を一定時間後に省電力動作モードにすることもできます

上記の手順7で[タイマー起動後に省電力モードに移行する]をクリックし、処理を中断するまでの時間などを設定します。

ご注意

- 初期設定では、液晶ディスプレイパネルを閉じているときは、タイマーを設定していても指定したソフトウェアは起動しません。
ディスプレイパネルを閉じているときでも起動したいときは、「PPK Setup」画面の[詳細設定]タブをクリックし、「液晶パネルが閉じた状態では使用できないように設定する」のチェックをはずします。
- タイマー起動後、実際にソフトウェアが動作を始めるまでに時間がかかることがあります。どれくらい時間がかかるかを、あらかじめ確認しておくことをおすすめします。

ワンタッチで電子メールを確認する

プログラマブルパワーキーの便利な使いかたの例として、ワンタッチで電子メールを確認できるよう設定してみましょう。プログラマブルパワーキーを押すだけで、メールを確認できます。

ご注意

この機能を使うまえに、以下の点を確認してください。

- インターネットに接続するための接続会社と契約は済んでいますか。
- 電子メールのアカウントを取得していますか。
- Windows 95の「ダイヤルアップネットワークの設定」は済んでいますか。
- 「ダイヤルアップネットワークの設定」で、「パスワードを保存する」にチェックはついていますか。
- 電子メール用ソフトウェアの設定は済んでいますか。

1 画面右下のをダブルクリックする。

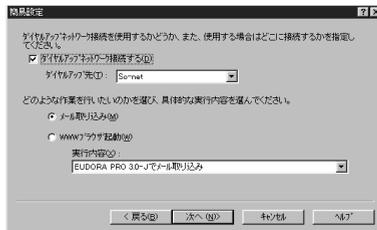
「PPK Setup」が表示されます。

2 [追加]をクリックする。

「設定方法の選択」が表示されます。

- 3** [簡易設定] をクリックして、[次へ >] をクリックする。
以下の手順で設定します。
- ① [ダイアルアップネットワーク接続する] をクリックし、ダイアルアップ先を設定する。
下矢印ボタンをクリックして、「インターネット接続ウィザード」などで設定した、ダイアルアップ先を選びます。
- ② [メール取り込み] をクリックし、実行内容を設定する。
下矢印ボタンをクリックして、使用する電子メール用ソフトウェアを選びます。

記入例



- 4** [次へ >] をクリックする。
ファイル名やコメントを入力します。
ここで入力したファイル名とコメントは、「PPK Setup」画面に表示されます。
- 5** [完了] をクリックする。
- 6** 手順4で設定したファイル名を、「アプリケーションの一覧」から選び、右ボタンをクリックする。
- 7** 「ワンタッチで好みのソフトウェアを起動する」(55ページ)の手順3と4を行う。
これで設定は終わりです。プログラマブルパワーキーを押すと、指定した電子メールソフトが起動して、電子メールを自動的に取り込みます。

PPK Setupソフトウェアの制限事項について

電話回線を使用するソフトウェアを起動する場合は

通信状態やサーバーの状態によっては、正常に回線を切断できないことがあります。

プログラム実行中は実行状態を監視して、異常が発見された場合には手動で回線を切断してください。また、タイマー起動するときは、一定時間後にサスペンドモードやSave To Diskモードへ移行するように設定しておくことをおすすめします。このように設定しておくことで、回線を正常に切断できないときでも、強制的に切断できます。

ただし、内蔵モデムリングレジュームがオンになっている場合には、サスペンドモードになっても回線が切断されませんのでご注意ください。

電話回線自動接続機能を持つ電子メールソフトウェアを使うときは

電子メールソフトウェアには、「EUDORA PRO 3.0-J」などの、電話回線に自動的に接続する機能を持つものもあります。

このような機能を持った電子メールソフトを使用するときは、「PPK Setup」のダイヤルアップ機能(スクリプトなど)を使ってインターネットに接続するよりも、電子メールソフトの機能を使ってインターネットに接続したほうが、接続不良などの異常事態が発生したときに、安定して回線を切断できる可能性が高くなります。

PPK Setup の簡易設定では、電子メールソフトなどの起動まえにダイヤルアップネットワークに自動的に接続します。そのため、電子メールソフト側でダイヤルアップできるときは、電子メールソフト側でダイヤルアップするように設定を変更するようおすすめします。

スクリプト実行中はパソコンの操作をしないでください

簡易設定によるメール取り込みには「ScriPlayer PRO32 Lite」で作成したスクリプトを使用しています。

これらのスクリプトを実行中にパソコンの操作をすると、誤動作の原因となりますのでご注意ください。

電話 / ファックスを使う

本機に電話回線をつなぐと、普通の電話と同じように電話をかけ、相手と話せます。また、本機に内蔵しているモデムはファックスにも対応していますので、電話回線をつないでファックスを送受信することもできます。電話をかけたりファックスを送ったりするためには、付属の「Communication Center」ソフトウェアを使用します。

電話回線へのつなぎかたについては、「内蔵モデムを電話回線につなぐ」(76ページ)をご覧ください。

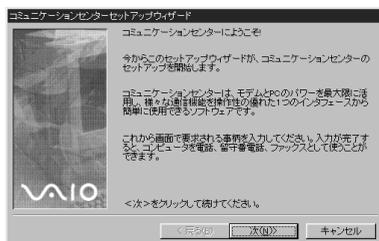
ここでは、① 電話をかける、② 電話を受ける、③ 留守番電話として使う、④ ファックスを送る、⑤ ファックスを受ける、という基本的な使いかたのみ説明します。

機能の詳細な説明や制限事項などについては、「Communication Center」のヘルプをご覧ください。

電話 / ファックスを準備する

本機で電話 / ファックスを使うためには、本機を電話回線につないでから、「Communication Center」ソフトウェアを起動する必要があります。

- 1 本機を電話回線に接続する。
電話回線へのつなぎかたについて詳しくは、「内蔵モデムを電話回線につなぐ」(76ページ)をご覧ください。
- 2 [スタート]ボタンをクリックして、ポインターを[VAIO]に合わせ、[Communication Center]を選び、[Communication Center]をクリックする。
「Communication Center」ソフトウェアが起動し、「セットアップウィザード」が表示されます。



次のページにつづく

3 [次>]をクリックする。

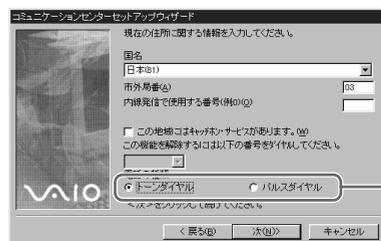
画面の指示にしたがって必要な情報を入力し、[次へ>]をクリックします。

前の画面を見るには、[<戻る]をクリックします。



4 電話の種類を選ぶ。

お使いの電話回線の種類を選びます。



お使いの電話回線がプッシュホン回線のときは[トーンダイヤル]を、ダイヤル回線のときは[パルスダイヤル]をクリックして選びます。

5 電話番号を入力する。

自宅電話番号を入力します。勤務先電話番号、ファックス番号は必要がなければ空欄のままでもかまいません。



引き続き画面の指示にしたがって必要な情報を入力します。

6 応答の設定をする。

応答メッセージや、自動応答するまでの呼び出し回数などを設定します。



7 [終了]をクリックする。

画面の指示に従ってすべて入力したら、[終了]をクリックします。



これで電話をかけたたりファックスを送受信できるようになりました。

電話をかける

61ページの「電話 / ファックスを準備する」が終わったら、電話をかけてみましょう。

- 1 画面上の電話番号ボタンをクリックして、相手先の電話番号を入力する。

電話番号はキーボードでも入力できます。

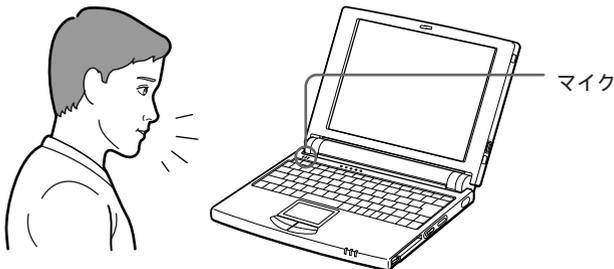


電話番号を入力すると、左下の「SPEAKER PHONE」ボタンが「DIAL」ボタンに変わります。

- 2 [DIAL]をクリックする。

手順1で指定した電話番号に自動的にダイヤルします。ダイヤルを始めると、左下の「DIAL」ボタンが「HANGUP」ボタンに変わります。

- 3 相手が電話に出たら、本機に内蔵のマイクに向かって話す。



相手の音声は内蔵スピーカーから聞こえます。電話回線の状態によっては、音声が聞き取りにくい場合があります。このときは、別売りのステレオヘッドホンをお使いください。

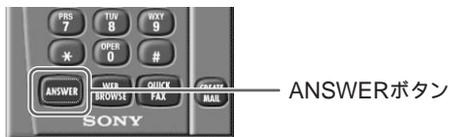
電話を切るには

画面左下の[HANGUP]をクリックします。

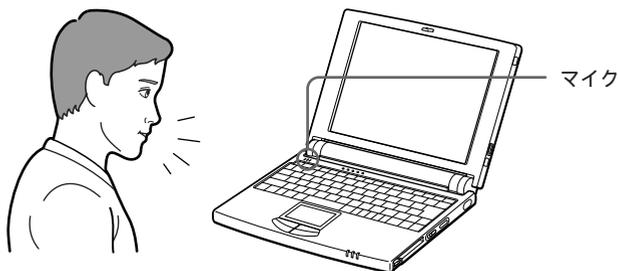
電話を受ける

本機で電話を受けることもできます。

- 1 画面左下の[ANSWER]をクリックする。
電話がかかってくると、画面左下の「SPEAKER PHONE」ボタンが「ANSWER」ボタンに変わります。



- 2 本機に内蔵のマイクに向かって話す。



相手の音声は内蔵スピーカーから聞こえます。電話回線の状態によっては、音声聞き取りにくい場合があります。このときは、別売りのステレオヘッドホンをお使いください。

留守番電話として使う

電話がかかってくると、すでに設定されているメッセージまたはご自分で録音したメッセージで自動応答します。ファックスのみに応答することなどもできます。

詳しくは、「Communication Center」のヘルプをご覧ください。
留守番電話として使うには、以下の準備を行っておいてください。

- 1 本機にACアダプターをつなぐ。

- 2 自動的に本機がSave To Diskモードにならないように設定する。
「PowerPanel」ソフトウェアを使って設定します。詳しくは、「PowerPanel」のヘルプをご覧ください。
工場出荷時の設定では、ACアダプターをつないでいるときはサスペンドモードやSave To Diskモードにはなりません。
- 3 モデム着信レジュームの設定を「オン」にする。
本機がスタンバイモードになっている間に電話がかかってきたときに、自動的に動作復帰するよう設定します。
詳しくは、「PowerPanel」のヘルプをご覧ください。

ファックスを送る

本機でファックスを送信できます。本機で作成したり、本機に読み込んだりした文書を、そのままファックスとして送れるため、印刷する手間と紙を節約できます。

ここでは、アプリケーションソフトウェアで作成した文書を直接ファックスで送る手順を説明します。

- 1 アプリケーションソフトウェアで、ファックスで送りたい文書を作成する。
- 2 文書を作成したアプリケーションソフトウェアで、[印刷] (または[プリント]など文書を印刷するためのコマンド)を実行する。「印刷」が表示されます。

ワードパッドでの例



- 3 [使用するプリンタ]をクリックして[Communication Center Fax]を選び、[OK]をクリックする。



「ファックス送信」が表示されます。

- 4 相手先の電話番号を入力する。
- 5 [ファックス送信]をクリックする。
ファックス送信が始まります。
送信をやめるときは、[キャンセル]をクリックします。

ファックスを受ける

ファックスを受信するときは、送られてきたファックスを画像データとして直接受け取るため、あとでファックスを見ながら必要な内容をパソコンに入力する手間が省けます。

本機は電話がかかってくると、自動的にファックスを受信します。

通話中でも、手動でファックスを受信できます。詳しくは、

「Communication Center」のヘルプをご覧ください。

ご注意

受け取ったファックスは画像データとして取り扱われます。そのため、ファックス中の文字をそのまま文字テキストとして利用することはできません。



電話回線がないところでも、携帯電話やPHSをつないでファックスを送受信できます。本機と携帯電話やPHSをつなぐには、お使いの電話に対応した通信用のPCカードなどが必要です。

詳しくは、お持ちの携帯電話またはPHSの販売店にご相談ください。

他の機器とデータをやりとりする

本機で作成したデータを他機に送ったり、他機で作成したデータを本機で受け取ったりすることができます。自宅や職場などで複数のパソコンをお使いのときは、作成したデータをやりとりすることで、本機をより活用いただけます。また、データ交換の方法を工夫することで、Macintoshなど、Windowsが動作しない機種とデータをやりとりすることもできます。

例えば...

外出するときに、必要なデータだけを職場のデスクトップパソコンから本機に読み込んで、外出先でデータを修正します。職場に戻ってから、本機で修正したデータをデスクトップパソコンに戻して、データを加工したり保存したりできます。

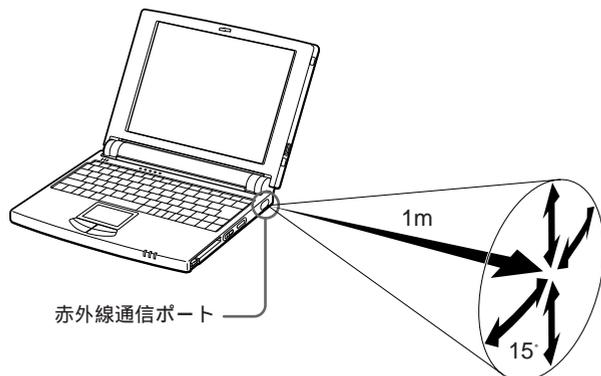
ここでは、データ交換で使われている、以下の方法について説明します。

- 赤外線 (IrDA規格) を使ってやりとりする
- シリアルケーブルを使ってやりとりする
- ネットワークを使ってやりとりする
- PCカードを使ってやりとりする

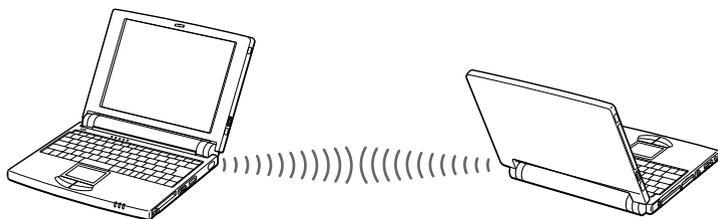
赤外線 (IrDA) でデータをやりとりする

本機右側面の赤外線通信ポートを使って、IrDA対応の赤外線通信ポートの付いた他の機器とデータをやりとりできます。ケーブルをつなぐずにデータの送受信ができるため、ケーブルをつなぐ手間が省けるうえに、ケーブルを使ったときに比べて短時間でデータをやりとりできます。

パソコンだけでなく、赤外線通信ポートを持っている機器であればデータをやりとりできます。例えば、ソニー製のデジタルスチルカメラ「サイパーショット」にもIrDA対応の赤外線通信ポートがついているため、本機と赤外線ですべてのデータをやりとりできます。



他のノートパソコンとデータをやりとりするときは、下図のように配置してください。



実際にデータをやりとりするには、付属の「^{トランジット}TranXit」ソフトウェアを使います。操作方法について詳しくは、「TranXit」の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

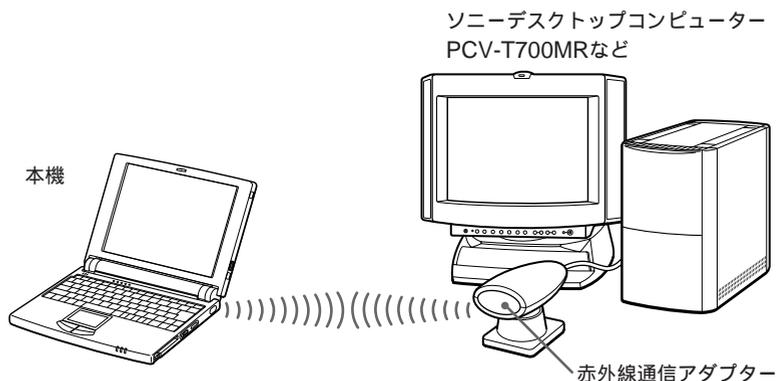
データを正しく送受信するために、赤外線でデータをやりとりするときは、以下の点にご注意ください。

- 通信を行う機器を近づけ過ぎない。
- 赤外線通信ポートは真正面でも向き合うように配置する。
- 赤外線通信ポート間に物を置かない。
- 強い直射日光の当たる場所や、インバーター蛍光灯の下では赤外線通信を避ける。



赤外線通信ポートのない機器でも、別売りの赤外線通信アダプターを取り付けると、本機と赤外線でもデータをやりとりできるようになるものもあります。

詳しくは、お持ちの機器の販売店にご相談ください。



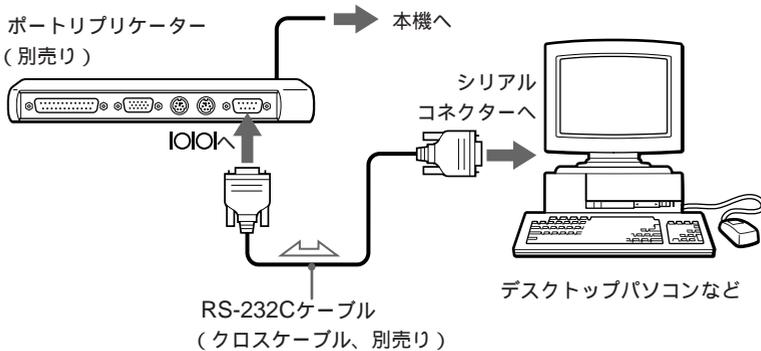
ご注意

「赤外線モニター」が動作していると、省電力モードが働かなくなるのでご注意ください。詳しくは、109ページの「赤外線通信を使用しているときのご注意」をご覧ください。

シリアルケーブルを使ってデータをやりとりする

本機とデスクトップパソコンなどを接続ケーブルを使って接続して、データをやりとりできます。赤外線通信に比べて通信に多少時間はかかりますが、シリアルコネクタのある機器とならRS-232Cケーブル1本でデータをやりとりできます。

別売りのポートリプリケータ(PCGA-PR5)を使って接続します。ポートリプリケータの使いかたについて詳しくは、「ポートリプリケータを使って拡張する」(84ページ)をご覧ください。



ご注意

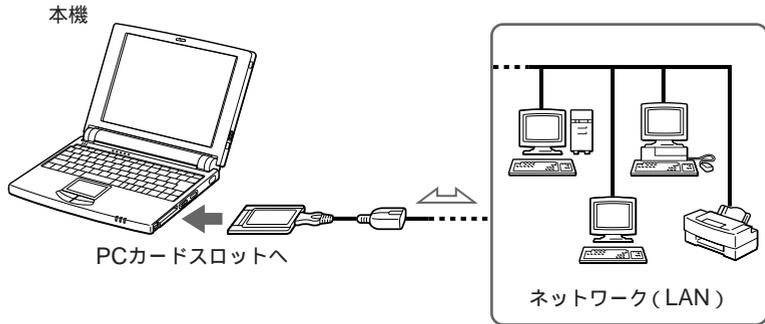
- 接続ケーブルをつなぐときは、本機と接続する機器および周辺機器の電源を切ってから接続してください。
- 電源を入れるときは、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。
- RS-232Cケーブルは、クロスケーブルをお使いください。ストレートケーブルでつないでも、データをやりとりできません。
- RS-232Cケーブルを購入されるときは、コネクタの形状に十分ご注意ください。

ネットワーク(LAN)につないでデータをやりとりする

本機を職場などのネットワーク(LAN)に接続して、ネットワーク内の他の機器とデータをやりとりできます。

本機とネットワークをつなぐには、ネットワークPCカードが必要です。この場合、接続したいネットワークに合わせた種類のネットワークカードをお使いください。

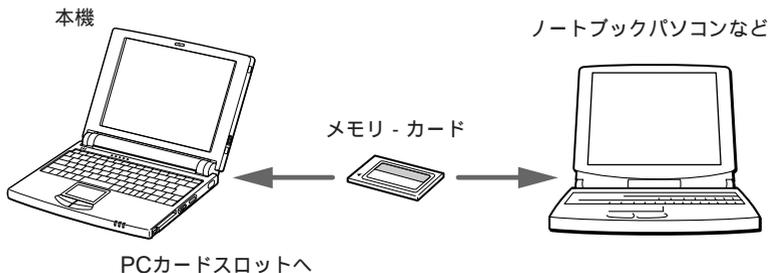
ネットワークに接続するために必要な周辺機器や設定については、職場などのネットワークのシステム管理担当者にご相談ください。



PCカードを使ってデータをやりとりする

PCカードを使って、PCカードに対応した機器とデータをやりとりできます。PCカードについて詳しくは、「PCカードを使う」(89ページ)をご覧ください。

本機やPCカードに対応した機器で作成したデータをメモリーカードに保存して、データをやりとりできます。



音楽CD / ビデオCDを再生する

音楽CDやビデオCDを再生して楽しむことができます。音楽CDを再生して音楽を聞きながら、他のソフトウェアを操作することもできます。(一部ソフトウェアを除きます。)

本機で音楽CDなどを再生するには、別売りのCD-ROMドライブ(PCGA-CD5)が必要です。接続について詳しくは、「CD-ROMドライブをつなぐ」(79ページ)をご覧ください。

ご注意

別売りのCD-ROMドライブで音楽CDを再生しても、本機のスピーカーからは音は出ません。音楽CDを聞くには、ヘッドホンや外部スピーカーなどをCD-ROMドライブにつないでください。

Media Barで音楽CD / ビデオCDを再生する

「Media Bar」を使うとMIDIファイルなどの音声・動画ファイルを再生することもできます。「Media Bar」を使うには以下の流れに沿って行います。

画面の「AV再生のセットアップ」アイコンをダブルクリックする

「Media Bar」を設定するための画面が表示されます。

画面の指示に従って操作する

画面の指示に従って必要な項目を入力します。

本機を再起動して、Media Barを起動する。

Media Barを起動すると、画面上部に「Media Bar」操作画面が表示されます。「Media Bar」の使いかたについては、「Media Bar」の取扱説明書をご覧ください。

いろいろなソフトウェアを使う

本機は、さまざまな用途に応じたソフトウェアを付属しています。これまで説明してきた使いかたの他にも、幅広く本機を活用していただけます。ここでは、付属のソフトウェアの中から一部をご紹介します。

□ 絵メモをとる

「手書きメモ」ソフトウェアを使います。

付属のペンを使ってタッチパッド上をなぞると、ペンの動きに合わせて文字や図形が書けます。文字では表現しにくい地図などをメモするのに便利です。好みに合わせて、線の色や幅を設定することもできます。

□ 手書きワープロでメモをとる

「手書きワープロ」ソフトウェアを使います。

付属のペンまたはキーボードを使ってメモをとることができます。ちょっと長いメモをとるときなどに便利です。好みに合わせて、線の色や幅を設定することもできます。

□ 音声でメモをとる

「ボイスメモ」ソフトウェアを使います。

音声を録音してメモをとることができます。また、「手書きメモ」で作成したメモや、ビットマップファイルなども貼り付けることができます。

□ 決まった時間に好みのソフトウェアを起動する

「PPK Setup」ソフトウェアを使います。

深夜に自動的に電子メールを受信するように設定したり、プログラマブルパワーキーを押しただけで「ボイスメモ」を起動して、すぐにメモをとれるよう設定できます。

□ 画像データを管理する

「PictureGear Lite」ソフトウェアを使います。

デジタルスチルカメラなどから読み込んだいろいろな種類の画像データをまとめて管理できます。

使いかたについて詳しくは、「PictureGear Lite」の取扱説明書をご覧ください。

□ 仮想世界を散歩する

「Community Place Browser」ソフトウェアを使います。

インターネット上に点在する仮想世界を、現実の世界のように散歩します。使いかたについて詳しくは、「Community Place Browser」の取扱説明書をご覧ください。

□ 地図を見る

「Navin' You Lite」ソフトウェアを使います。

ハードディスクにプリインストールされている東京23区版の地図のほか、ナビ研規格に準拠している地図ディスクを見たり、地図上の情報を検索することができます。

使いかたについて詳しくは、「Navin' You Lite」の取扱説明書をご覧ください。

このほかにも、以下のような使いかたができます。

- 画像を加工する
- インターネットのホームページを見る
- 辞書を使う
- ゲームを楽しむ

別冊の「付属ソフトウェア一覧」には、本機に付属のソフトウェアをまとめてご紹介しています。そちらもあわせてご覧ください。

拡張編

この章では、本機とプリンターなどの周辺機器や電話回線との接続のしかたなどを説明します。

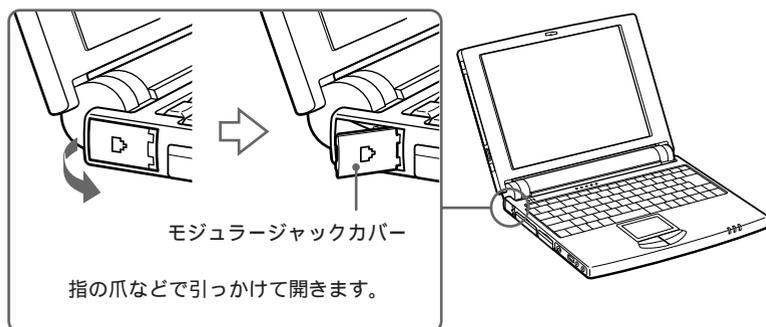
第 2 章

周辺機器を接続する

内蔵モデムを電話回線につなぐ

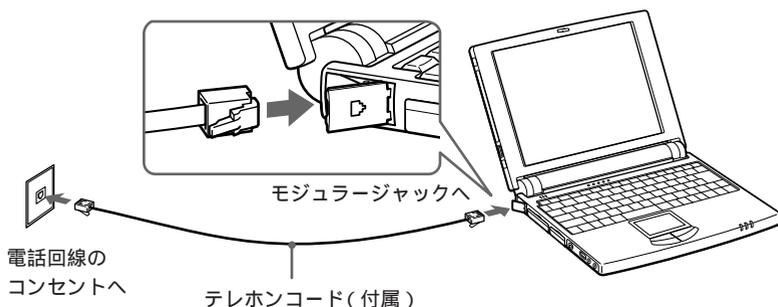
本機には、ファックスモデムが内蔵されています。付属のテレホンコードを使って本機を電話回線につなぐと、パソコン通信やインターネットなどのデータ通信をしたり、ファックスを送受信できるようになります。

1 モジュージャックカバーを開ける。



2 電話回線につなぐ。

モジュージャックは本機の後ろ側から、モジュラープラグのつめがカチッとロックするまで斜めに差し込みます。



モジュラージャックが2つある電話機をお使いのときは、下図のようにつなぎます。



ご注意

接続したあとに、使用する電話、ファックス、通信などの設定を、ソフトウェアで設定する必要があります。詳しくは、それぞれのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

電話回線についてのご注意

- 使用可能な回線は、一般電話回線とPBX回線です。
- 職場内でPBX回線などの私設交換機を使用しているときは、モジュラー型の電話回線のコンセントに内蔵モデムを直接つなぐと、うまく送受信できないことがあります。これは呼び出し信号の使われかたが、一般の電話回線と異なるためです。PBX回線につなぐときは、PBX回線の電気的条件がNTTの電話回線と同じである必要があります。ファックスモデムが接続できるかどうかは、PBXメーカーまたはPBX保守業者にお問い合わせください。
- デジタル交換機につなぐと、交換機の故障の原因になることがあります。
- 本機の内蔵モデムは、通信相手が応答しない場合、60秒で電話を切るように設定されています。30秒以内に電話を切るようにモデムの設定を変更することもできますが、この場合、交換機の接続遅延時間によっては接続できないことがあります。設定を変更する場合でも、30秒以上に設定するようおすすめします。

電話回線のコンセントの種類

電話回線のコンセントは以下の4種類があります。ご自宅、外出先のコンセントに合った方法で接続してください。

コンセントの型	接続に必要なソニーの別売りアクセサリー
モジュラー型	不要(そのままつなぐことができます)
	
3ピンジャック型	テレホンモジュラーアダプターTL-30
	
直付け型ローゼット ¹⁾	モジュラーローゼットTL-32CRなど
	
埋め込み型 ²⁾	テレホンモジュラージャックコンセントTL-31
	

¹⁾ 直付けタイプからモジュラージャックへの交換工が必要です。NTT(局番なしの116番)へご依頼ください。

²⁾ 電話工事担当者による取り付け工が必要です。NTT(局番なしの116番)へご依頼ください。

ご注意

ビジネスホン、ホームテレホンなどの電話機やドアホン付きの電話機をお使いのときは、工が必要となる場合があります。電話機を取り付けた業者にご相談ください。

CD-ROMドライブをつなぐ

CD-ROMはコンピューターで扱うプログラムやデータを記録した、読みとり専用の記録メディアです。ここでは、別売りのCD-ROMドライブユニットPCGA-CD5の取り付けかたについて説明します。

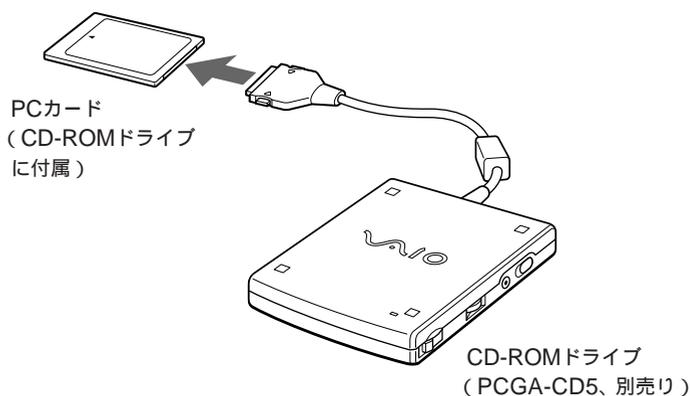
ご注意

- 接続のしかたは、お使いになるCD-ROMドライブによって異なります。詳しくはCD-ROMドライブの取扱説明書をご覧ください。
- CD-ROMドライブによっては本機で使用できないものもあります。詳しくは、ITテクニカルレスポンスセンターまたは販売店にご確認ください。

CD-ROMドライブを取り付ける

PCGA-CD5はPCカードを使って本機とやりとりします。

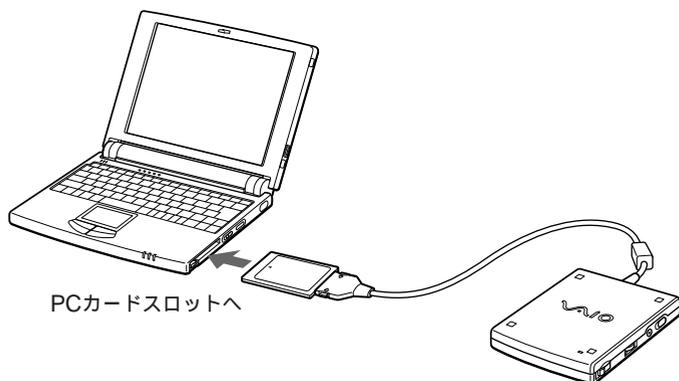
- 1 PCカードスロットプロテクターを取りはずす。
詳しくは、「PCカードを取り付ける」(90ページ)の手順1をご覧ください。
- 2 CD-ROMドライブにPCカードを取り付ける。



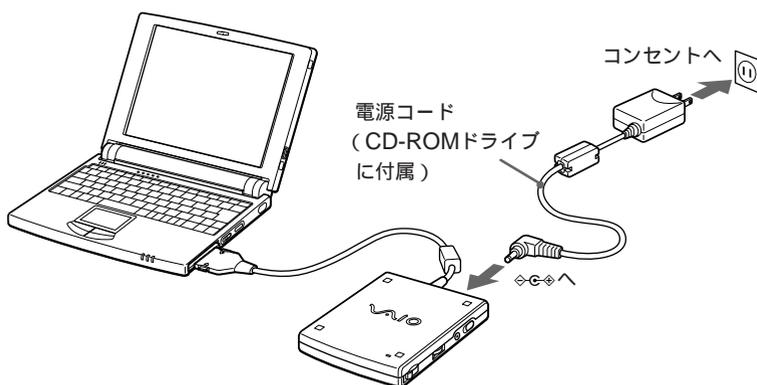
次のページにつづく

3 PCカードを本機に取り付ける。

PCカードの上下を確認してから取り付けます。スロットの奥にあるコネクタに、カードがしっかりと固定されるまで押し込みます。カードを挿入すると、イジェクトボタンが出ます。取り付けかたについて詳しくは、「PCカードを取り付ける」の手順2（91ページ）をご覧ください。



4 CD-ROMドライブの電源をつなぎ、電源を入れる。



5 本機の電源を入れる。

「マイコンピュータ」内にCD-ROMドライブのアイコンが表示されます。

CD-ROMドライブを取りはずすには

「PCカードを取り出す」(92ページ)の手順に従ってPCカードを取り出します。

デジタルスチルカメラを使う

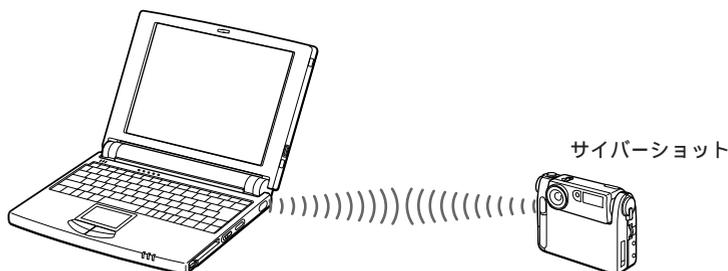
デジタルスチルカメラで撮影した画像を本機に取り込みます。ここではソニーデジタルスチルカメラ「サイバーショット」と、他の機種をお使いのときの一般的なご注意を説明します。

ご注意

接続のしかたや画像の取り込みかたは、デジタルスチルカメラによって異なります。詳しくはデジタルスチルカメラの取扱説明書をご覧ください。

ソニーデジタルスチルカメラ「サイバーショット」を使う

ソニーデジタルスチルカメラ「サイバーショット」(DSC-F1/F2/F3)には赤外線通信機能があるので、ケーブル接続は必要ありません。本機右側面の赤外線通信ポートと「サイバーショット」が向き合うように設置します。



画像を取り込む

本機に付属している「PictureGear Lite」ソフトウェアを使って、画像を取り込みます。

操作方法について詳しくは、「PictureGear Lite」の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

「PictureGear Lite」を使って赤外線データ通信を行うと、本機の省電力モードが働かなくなり、バッテリーの消耗が早まることがあります。

省電力モードを有効にするには、「PictureGear Lite」を終了してから、本機を再起動してください。

他のデジタルスチルカメラを使う

デジタルスチルカメラから撮影した画像を取り込むには、一般的に次の方法があります。お使いの機種に合った方法で、画像を取り込んでください。

- 別売りのポートリプリケーター (PCGA-PR5) を使って、デジタルスチルカメラとSERIALコネクタ - をケーブルで接続する。接続するケーブルやソフトウェアは、お使いのデジタルスチルカメラ専用品をお使いください。
- PCカードに画像を記録するデジタルスチルカメラのときは、メモリーカードを本機のPCカードスロットに差し込む。
PCカードについては詳しくは、「PCカードを使う」(89ページ)をご覧ください。

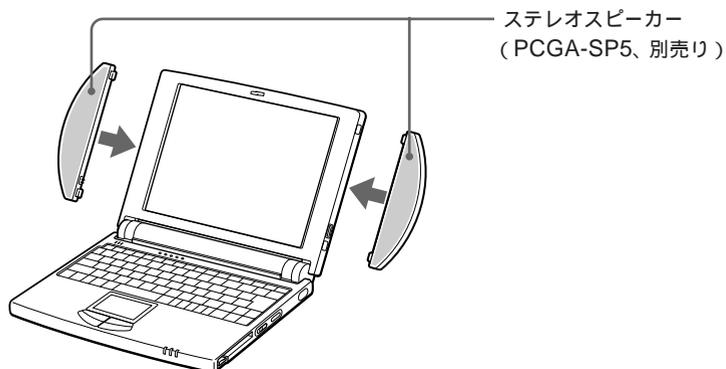
ご注意

お使いの機種およびソフトウェアが本機に対応しているかどうかについては、デジタルスチルカメラおよびソフトウェアの販売元にお問い合わせください。

外部スピーカーを取り付ける

別売りのステレオスピーカー(PCGA-SP5)を液晶ディスプレイの両側に
取り付けると、ステレオ音声を楽しめます。

スピーカーの取扱説明書もあわせてご覧ください。



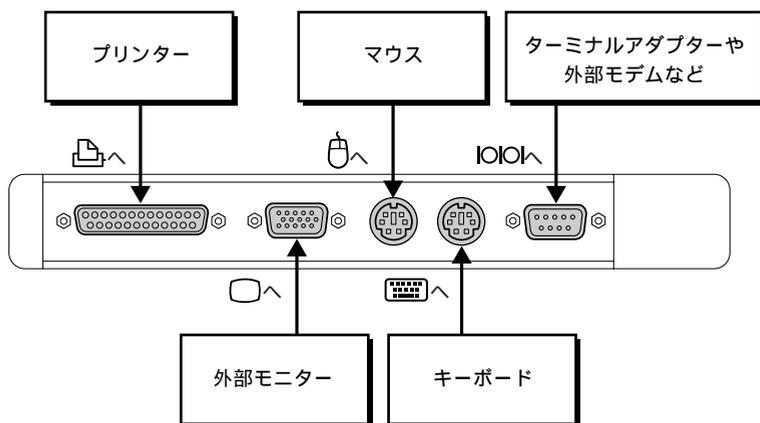
ご注意

- 外部スピーカーを取り付けるときは、スピーカーの音量を最小にしてください。
- スピーカーの音量を調節するには、Fnキーを押しながらF4キーを押します。詳しくは、「Fnキーとの主な組み合わせと機能」(140ページ)をご覧ください。
- スピーカーの上にフロッピーディスクなどを置かないでください。スピーカーの磁気によりディスクに記録されているデータが破壊されることがあります。
- 外部スピーカーをつなぐと、内蔵スピーカーから音は出ません。

ポトリプリケーターを使って拡張する

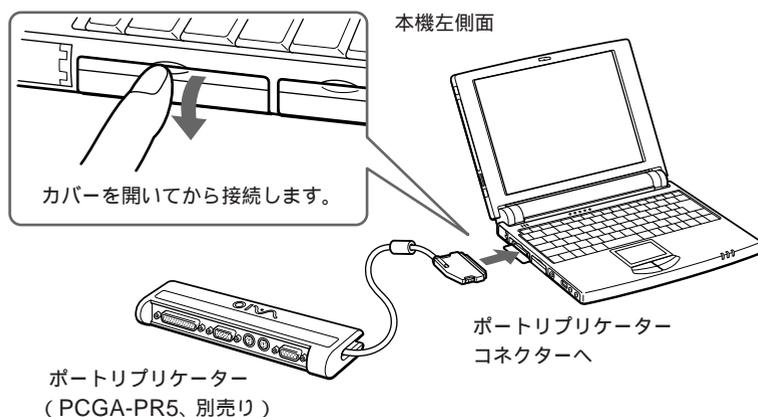
別売りのポトリプリケーター (PCGA-PR5) を使うと、プリンターや外部ディスプレイなどの周辺機器を本機につなぐことができます。

ポトリプリケーターを使った主な接続例

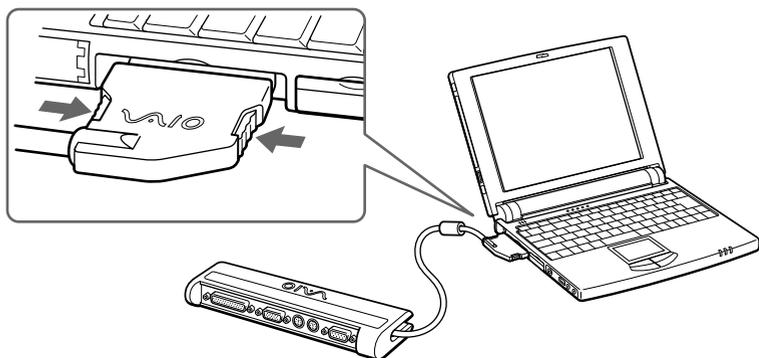


ポトリプリケーターを取り付ける

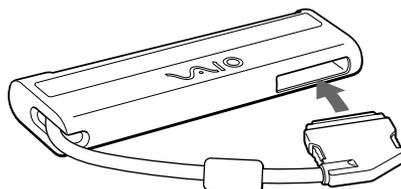
本機の電源を切ってから行ってください。



ポートリプリケーターを取りはずすには
本機の電源を切ってから、コネクターの両端をつまんでケーブルをはずし
ます。



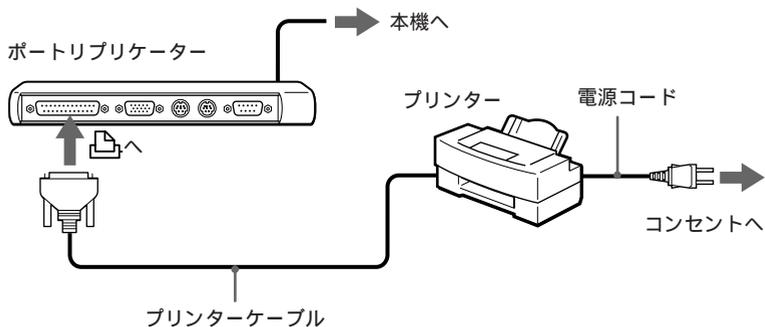
ポートリプリケーターを持ち運ぶときは
取りはずしたあとは、ケーブルをポートリプリケーター後面にはめ込む
と、ケーブルが邪魔になりません。



プリンターをつなぐ

Windows 95に対応しているプリンターを本機につないで、作成した書類などを印刷できます。

プリンターに付属しているプリンターケーブルを使ってつなぎます。



ご注意

- 本機とプリンターの電源を切ってから接続してください。
- 電源コードは、すべての接続が終わってからつないでください。
- 電源を入れるときは、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。
- Windows 95に対応していないプリンターを本機につないでも、正常に動作しません。

プリンターを使用するには

プリンターを使用するには、次の準備が必要です。

- プリンターに付属のドライバーソフトを本機にインストールする。
詳しくはプリンターの取扱説明書をご覧ください。
- プリンターポートを設定する。
詳しくは、「プリンターポートの設定を変更する」(97ページ)をご覧ください。

外部ディスプレイをつなぐ

大きな画面で内容を確認したいときなどは、本機に外部ディスプレイを接続します。

ご注意

- 本機と接続する機器の電源を切ってから接続してください。
- 電源コードは、すべての接続が終わってからつないでください。
- 電源を入れるときは、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。

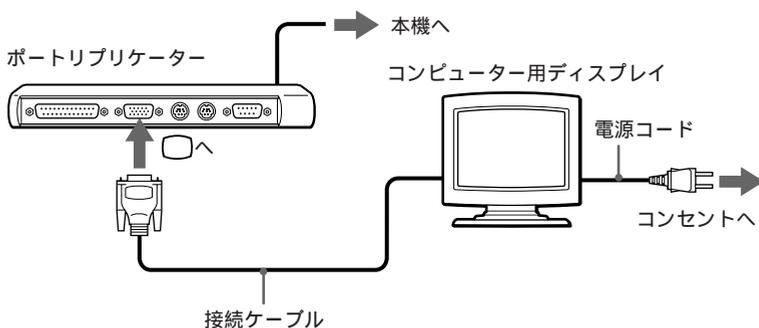


本機のディスプレイと接続した外部ディスプレイの表示を切り換えられます。詳しくは、「表示するディスプレイを選ぶ」(115ページ)をご覧ください。

コンピューター用ディスプレイをつなぐ

スピーカーなどが内蔵されていない通常のディスプレイにつなぐときは、ディスプレイの他に外部スピーカーなどをつなぐことで、AV環境をよりお楽しみいただけます。

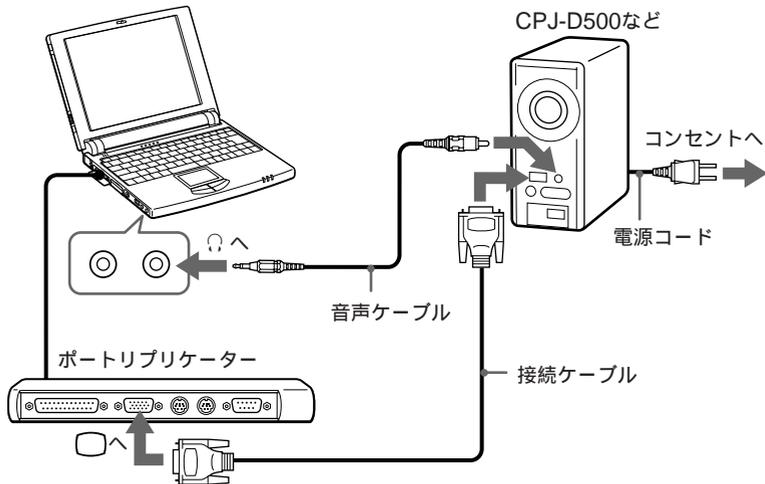
外部スピーカーの接続のしかたについては、「外部スピーカーをつなぐ」(83ページ)をご覧ください。



液晶プロジェクターをつなぐ

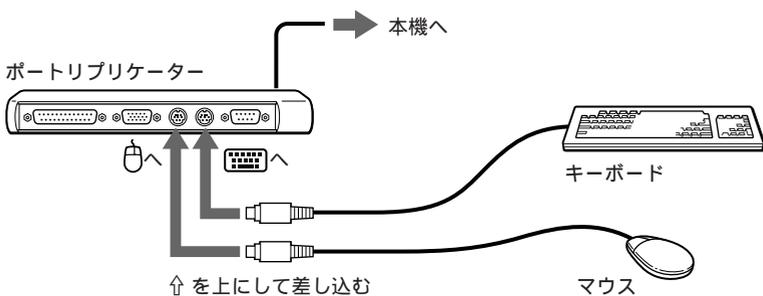
ソニーCPJ-D500などの小型の液晶プロジェクターを使うと、プレゼンテーションをするときなどに便利です。

接続のしかたは機器によって異なります。詳しくは、液晶プロジェクターの取扱説明書をご覧ください。



キーボード/マウスをつなぐ

PS/2準拠のキーボードやマウスを接続できます。



ご注意

- 接続ケーブルをつなぐときは、本機と接続する機器の電源を切ってから接続してください。
- 本機の電源が入っている状態でPS/2デバイス(キーボードやマウス)を接続したり、はずしたりしないでください。誤動作の原因になります。
- マウスをつないでいるときは、内蔵のタッチパッドは使えません。

本体を拡張する

メモリーを増設する

別売りの専用メモリーを増設すると、データの処理速度や、複数のアプリケーションソフトウェアを同時に起動したときの処理速度が向上します。

ご注意

専用メモリーの増設は、弊社の指定サービス窓口にて行ってください。
ご自分で増設されて故障が発生した場合は、保証期間中であっても有償修理となります。

PCカードを使う

本機には、PC CardタイプIとタイプIIに準拠したPCカードを挿入できるPCカードスロットがあります。また、本機のPCカードスロットはCard BusおよびZV (Zoomed Video) Portにも対応しています。

PCカードとは

PC Card規格に準拠した、着脱可能な機能拡張デバイスです。形はクレジットカードに似ていますが、やや大きくて厚みがあります。
主なPCカードには以下のような種類があります。

メモリーカード

データをフラッシュメモリーに保存します。PCカードに対応したデジタルスチルカメラで撮影した画像であれば、PCカードを本機に取り付けてそのまま取り込めます。

SCSIカード

MOドライブやスキャナーなどのSCSIデバイスを接続できます。

ネットワークカード

イーサネットなどのネットワークに接続できます。

TA(ターミナルアダプター)カード

ISDN回線に接続できます。

ビデオカード

ビデオ機器を接続して、動画や静止画を取り込みます。

ご注意

PCカードによっては本機で使用できないものや、機能が制限されるものがあります。

PCカードを取り付ける

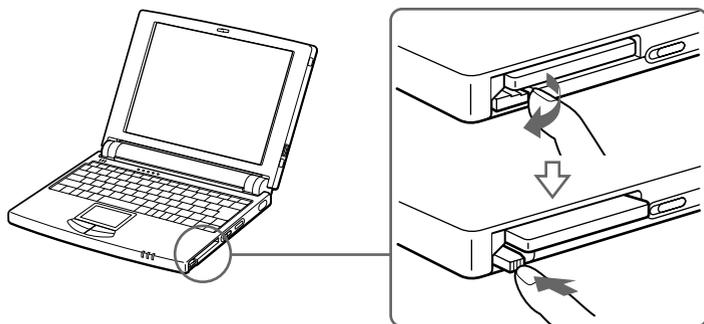
PCカードを取り付けるときに本機の電源を切る必要はありません。

1 PCカードスロットプロテクターを取り出す。

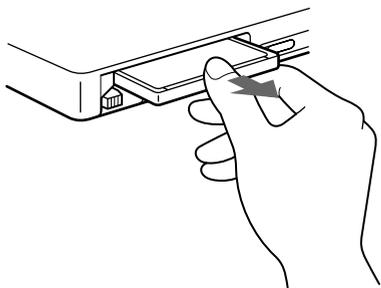
スロットを保護するために、PCカードスロットプロテクターが装着されています。PCカードを挿入する前に、プロテクターを取り出す必要があります。

- ① イジェクトボタンをを起こしてから、ボタンを押す。

プロテクターが出ます。

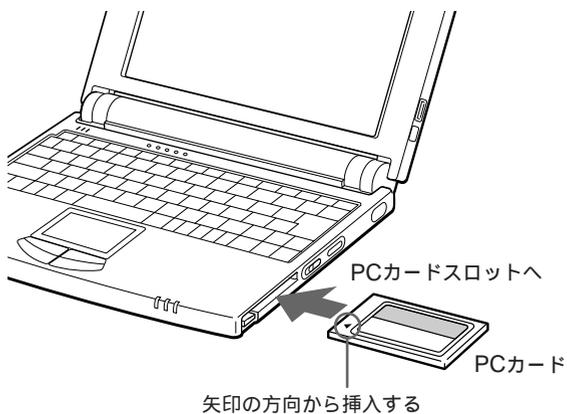


② プロテクターの端を持って、スロットから引き抜く。



2 カードをスロットに挿入する。

スロットの奥にあるコネクタに、カードがしっかりと固定されるまで押し込みます。カードを挿入すると、イジェクトボタンが出ます。カードがうまく入らない場合は、無理にカードを押し込まずに、カードの挿入方向を確認してからもう1度挿入し直してください。



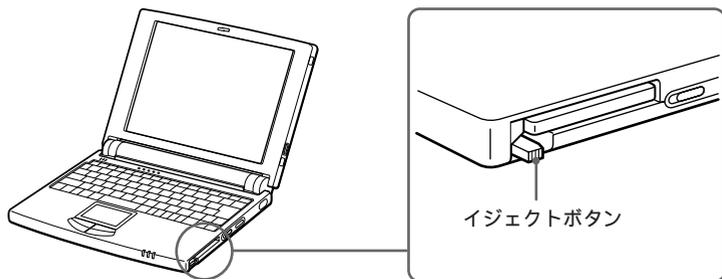
取り付けたあとの使いかたについては、PCカードの取扱説明書をご覧ください。

PCカードを取り出す

ご注意

カードを取り出すときは、必ず以下の手順にしたがってください。誤った取り出し方をすると、システムが正常に動作しない可能性があります。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして[設定]にポインターを合わせ、[コントロールパネル]をクリックする。
- 2 [PCカード]をダブルクリックする。
- 3 リストから取り出したいPCカードを、次に[終了]ボタンを順にクリックする。
- 4 「このデバイスは安全に取り外せます。」と表示されたら[OK]ボタンをクリックする。
- 5 PCカードスロットのイジェクトボタンを押す。
カードがコネクターからはずれます。カードの端を持って、スロットから引き抜いてください。



カードを引き抜いた後は、スロットを保護するために、必ずPCカードスロットプロテクターを挿入してください。

セットアップ編

Sony Notebook SetupやPowerPanel、BatteryScopeといった付属のユーティリティソフトウェアを使ったり、Windowsの設定を変更することで、ご使用になる環境や好みに合わせた動作環境をつくれます。

第 3 章

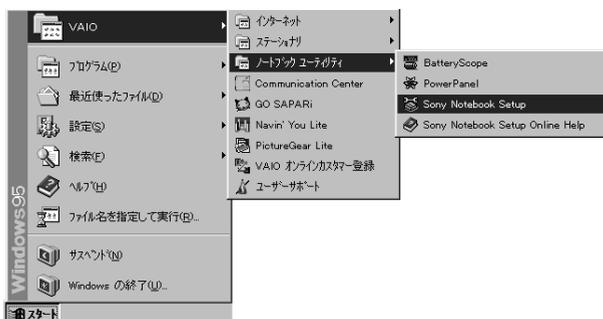
本機の使用環境を設定する

本機の情報を確認する

本機の製造年月日などの製品情報や、メモリーの容量などのシステム情報を確認することができます。

- 1 [スタート] ボタンをクリックして[VAIO]にポインターを合わせ、[ノートブック ユーティリティ]から[Sony Notebook Setup]をクリックする。

Sony Notebook Setupが起動し、「Sony Notebook Setup」が表示されます。



- 2 [システム情報]タブをクリックする。
本機の製品情報やハードウェア情報を確認できます。



確認が終わったら
[OK] をクリックします。

赤外線データ通信 (IrDA) の設定を変更する

赤外線通信をする相手の機器によっては、赤外線データ通信の設定を変更する必要があります。

- 1 [スタート] ボタンをクリックして [VAIO] にポインターを合わせ、[ノートブック ユーティリティ] から [Sony Notebook Setup] をクリックする。
Sony Notebook Setup が起動し、「Sony Notebook Setup」が表示されます。

次のページにつづく

- 2** [赤外線通信] タブをクリックする。
赤外線データ通信の設定項目が表示されます。



- 3** 設定したい内容に合わせて、設定項目を変更する。
本機と通信する機器の通信方式に合わせて設定します。
通常は「IrDA 1.1方式」に設定します。

- 4** [OK] をクリックする。
手順3で通信モードを変更した場合は、設定を有効にするために本機を再起動する必要があります。表示されたダイアログボックスの[再起動]をクリックして、本機を再起動してください。

赤外線通信ポートの設定が選べないときは
「使用デバイス」画面で「赤外線通信ポート」がチェックされていません。チェックしてから赤外線通信の設定をしてください。
詳しくは、「デバイスを一時的に使用できないように設定する」(101ページ)をご覧ください。

プリンタポートの設定を変更する

ポートリプリケーター（別売り）のPRINTERコネクタにプリンターなどのパラレル機器をつなぐときは、機器にあわせてプリンタポートモードを変更できます。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして[VAIO]にポインターを合わせ、[ノートブックユーティリティ]から[Sony Notebook Setup]をクリックする。

Sony Notebook Setupが起動し、「Sony Notebook Setup」が表示されます。

- 2 [プリンタ]タブをクリックする。
プリンタポートの設定項目が表示されます。



- 3 接続する機器にあわせて、プリンタポートのモードを選ぶ。
 - Normal : 通常のプリンタポートとして使う。
 - Bi-directional : 双方向のプリンタポートとして使う。
 - ECP : ECP対応機器をつないで使う。

- 4 [OK]をクリックする。

設定を有効にするために本機を再起動する必要があります。表示されるメッセージに従って再起動してください。

プリンタポートのモード設定が選べないときは

「使用デバイス」画面で「プリンタポート」がチェックされていません。チェックしてからプリンタポートの設定をしてください。

詳しくは、「デバイスを一時的に使用できないように設定する」(101ページ)をご覧ください。

起動ディスクを指定する

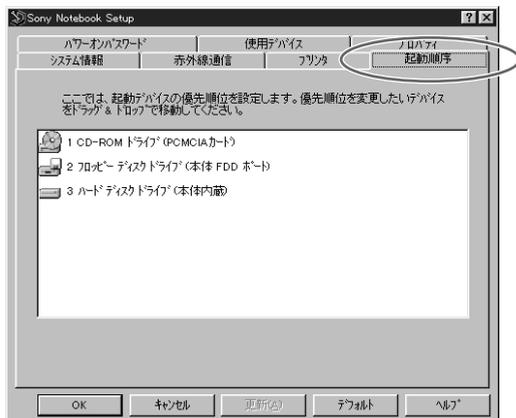
本機を起動するときの、起動ディスクを指定できます。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして[VAIO]にポインターを合わせ、[ノートブック ユーティリティ]から[Sony Notebook Setup]をクリックする。

Sony Notebook Setupが起動し、「Sony Notebook Setup」が表示されます。

- 2 [起動順序]タブをクリックする。

「起動順序」が表示されます。



- 3 順序を変更したいドライブを上下にドラッグする。

リスト表示中の上にあるドライブから先に本機が起動します。

- 4 [OK]をクリックする。

次に電源をいれるときは、手順3で設定した順位の高いドライブから本機が起動します。

本機をCD-ROMドライブから起動するには別売りのCD-ROMドライブPCGA-CD5が必要です。

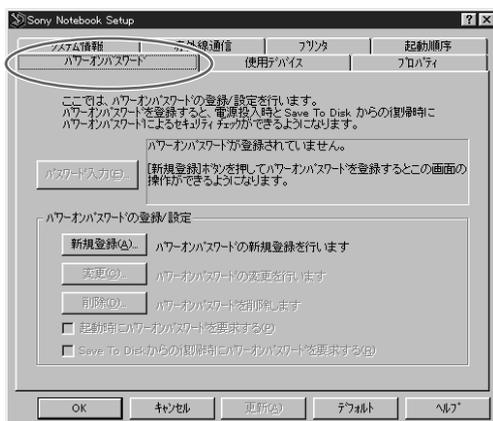
パスワードを登録する

パスワードを登録して、パスワードを知っているユーザーだけが本機を使えるようにできます。大切なデータを守りたいときなどに便利です。ここで登録したパスワードは、本機を起動してSONYのロゴマークが表示されたあとに入力します。

ご注意

パスワードを忘れると、本機を起動することができなくなります。パスワードは必ずメモを取るなどして、忘れないようにしてください。万一パスワードを忘れてしまったときは、ITテクニカルレスポンスセンターまでご相談ください。

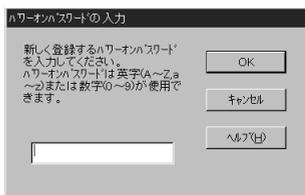
- 1 [スタート]ボタンをクリックして[VAIO]にポインターを合わせ、[ノートブックユーティリティ]から[Sony Notebook Setup]をクリックする。
Sony Notebook Setupが起動し、「Sony Notebook Setup」が表示されます。
- 2 [パワーオンパスワード]タブをクリックする。
パスワードの設定項目が表示されます。



- 3 [新規登録]をクリックする。

4 [はい]をクリックする。

5 登録したいパスワードを入力してから、[OK]をクリックする。
パスワードは半角の英数字7文字以内で入力します。1文字入力するごとに、*が表示されます。



6 手順5で入力したパスワードをもう1度入力してから、[OK]をクリックする。

7 [OK]をクリックする。
入力したパスワードが登録されます。

パスワードの登録をやめるときは
手順4で、[いいえ]をクリックします。

パスワードを変更する

1 「パスワードを登録する」の手順1と2を行う。

2 「パスワード入力」をクリックする。
パスワード入力画面が表示されます。変更前のパスワードを入力し、[OK]をクリックします。

3 [変更]をクリックする。
パスワード入力画面が表示されます。

4 登録したいパスワードを入力してから、[OK]をクリックする。

5 手順4で入力したパスワードをもう1度入力してから、[OK]をクリックする。
パスワードが変更されます。

6 [OK]をクリックする。

パスワードを削除する

- 1 「パスワードを登録する」(99ページ)の手順1と2を行う。
- 2 「パスワード入力」をクリックする。
パスワード入力画面が表示されます。削除したいパスワードを入力し、[OK]をクリックします。
- 3 [削除]をクリックする。
確認画面が表示されます。
- 4 [はい]をクリックする。
パスワードが削除されます。
削除をやめるときは、[いいえ]をクリックします。
- 5 [OK]をクリックする。

デバイスを一時的に使用できないように設定する

別売りのハードウェアやソフトウェアを使用するときに、IRQ、DMAといったハードウェアリソースが足りなくなることがあります。この場合、本機の使用していないデバイスを使用できないように設定することで、使えるハードウェアリソースの割り当てを、一時的に変更できます。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして[VAIO]にポインターを合わせ、[ノートブックユーティリティ]から[Sony Notebook Setup]をクリックする。
Sony Notebook Setupが起動し、「Sony Notebook Setup」が表示されます。

- 2** [使用デバイス]タブをクリックする。
使用デバイスの設定項目が表示されます。



- 3** 使用していないデバイスのチェックボックスをクリックし、
チェックをはずす。
(初期設定ではすべてのデバイスがチェックされています。)

- 4** [OK]をクリックする。
チェックをはずしたデバイスのリソースが削除されます。
設定を有効にするために本機を再起動する必要がある場合もあ
ります。表示されるメッセージに従って再起動してください。

使用するデバイスごとに詳細な設定をする

Sony Notebook Setup の[簡易設定]と[高度な設定]を切り換えるこ
とで、使用するデバイスごとにIRQやDMAといったリソースを割りあて
られます。

- 1** [スタート]ボタンをクリックして[VAIO]にポインターを合
わせ、[ノートブック ユーティリティ]から[Sony Notebook
Setup]をクリックする。
Sony Notebook Setupが起動し、「Sony Notebook Setup」が表
示されます。

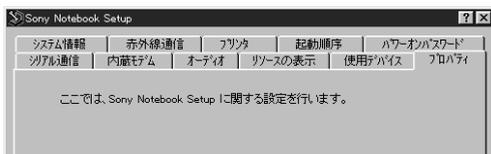
2 [プロパティ]タブをクリックする。

「プロパティ」が表示されます。



3 [高度な設定]をクリックする。

「シリアル通信」と「内蔵モデム」、「オーディオ」、「リソースの表示」タブが新たに表示されます。



4 リソースを設定する。

設定したいデバイスのタブをクリックして、設定画面を表示させ、リソースの一覧から任意の値を選んでクリックします。

5 すべての設定が終わったら、[OK]をクリックする。

設定を有効にするために本機を再起動する必要があります。表示されるメッセージに従って再起動してください。

工場出荷時の設定に戻すには

Sony Notebook Setup の[デフォルト]をクリックします。

なお、[デフォルト]をクリックしても、登録したパスワードは消去されません。

バッテリーの消費電力を節約する

バッテリーで本機を使用しているときは、本機の動作速度を下げたり、ハードディスクや液晶ディスプレイを自動的に停止させたりしてバッテリーの消耗を遅らせることができます(パワーマネージメント機能)。詳しくは「省電力動作モードについて」(108ページ)をご覧ください。

PowerPanelを起動する

本機に付属している「PowerPanel」ソフトウェアを使うことで、使用状況に合わせた電力の節約をできるようになります。

画面右下のをダブルクリックすると、画面右側にPowerPanelのアプリケーションバーが表示されます。



ポインターをボタンに合わせると、情報ボックスが表示されてボタンの機能を確認できます。

画面右下にが表示されていないときは

[スタート]ボタンをクリックして[VAIO]にポインターを合わせ、[ノートブックユーティリティ]を選び、[PowerPanel]をクリックします。「PowerPanel」が起動し、画面右側にPowerPanelのアプリケーションバーが表示されます。

使用環境にあったプロファイルを選ぶ

本機の動作モードを設定する(プロファイルボタン)

設定したいボタンをクリックすると、クリックしたボタンのパワーマネージメント機能が実行されます。

コマンドボタンが表示されているときは、アプリケーションバーを右クリックして、ショートカットメニューから[プロファイル]を選びます。



AC

ACアダプターをつないで使用するとき、ここで設定した状態になります。ACアダプターをはずすと、バッテリーで使用していたときに選んでいた状態に戻ります。



ノーマル

消費電力を節約しつつ、できるだけ通常の動作状態を保つよう、自動的に調節します。



スタミナ

バッテリーを最大限に長時間使用できるように動作状態を自動的に調節します。

特定のデバイスの電力供給をコントロールする (コマンドボタン)

設定したいボタンをクリックすると、クリックしたボタンのパワーマネージメント機能が実行されます。

プロファイルボタンが表示されているときは、アプリケーションバーを右クリックして、ショートカットメニューから[コマンド]を選びます。

次のページにつづく



システム スタンバイ

一時的にシステム全体の動作を停止し、スタンバイ状態になります。システムをもとの状態に戻すには、タッチパッドに触れるか、またはいずれかのキーを押します。サスペンド状態よりも早く通常の状態に復帰できます。ちょっと席をはずすときなどに便利です。



システム サスペンド

現在の本機の状態をメインメモリーに記憶させ、CPUの電源を切ります。システムをもとの状態に戻すには、いずれかのキーを押します。

翌日まで作業を中断するときなどに便利です。



システム Save To Disk

現在のシステムの状態をハードディスクに書き込んでから、自動的に本機の電源を切ります。本機の電源を入れると、Save To Disk 前の状態に戻ります。

19ページの「電源を切るには」の手順を行って本機の電源を切る代わりにこの機能を使うと、次回電源を入れたときに短時間でもとの作業状態に復帰できます。2～3日本機を使わないときなどに便利です。



LCD/Video スタンバイ

液晶ディスプレイの電源を切り、ビデオスタンバイ状態になります。いずれかのキーを押すともとの状態に戻ります。



ハードディスク スタンバイ

ハードディスクモーターの回転を止め、スタンバイ状態になります。ハードディスクへのアクセスがあるともとの状態に戻ります。



モデム オン

内蔵モデムの電源を入れます。



モデム オフ

内蔵モデムの電源を切ります。

この状態で「Communication Center」などのモデムを使用するソフトウェアを起動すると、エラーが発生します。[モデム オン] をクリックしてから、ソフトウェアを起動し直してください。



スピードコントローラー

CPU速度を変更するダイアログボックスが表示され、CPUの動作モードを変更できます。



PCカード

PCカードウィンドウが表示されます。

好みのプロファイルを設定する

使用環境に合わせて設定を変更したり、ボタンを追加したりすることもできます。

初期設定で表示されるボタンの他にもさまざまな設定が用意されています。また、用意されている設定を好みに合わせて変更したり、新しい設定を作成して登録することもできます。

詳しくは「PowerPanel」のヘルプをご覧ください。

省電力動作モードについて

本機はバッテリーでの使用可能時間を延ばすため、いくつかの省電力動作モードを持っています。モードごとに特長がありますので、使用状況に合わせて使い分けてください。

本機の動作モードについて

□ 通常モード(電源ランプ点灯)

通常の動作モードですが、液晶ディスプレイやモデムなど、特定のデバイスの電源だけを切って、消費電力を節約することもできます。

バッテリーの残量がわずかになると、自動的にSave To Diskモードになります(工場出荷時の設定)。このときは、復帰しても作業中の文書が失われることがありますのでご注意ください。

□ スタンバイモード(電源ランプ点滅)

一時的にシステム全体の動作を停止します。ちょっと席をはずすようなときに便利です。

バッテリーの残量がわずかになると、自動的にSave To Diskモードになります(工場出荷時の設定)。このときは、復帰しても作業中の文書が失われることがありますのでご注意ください。

- スタンバイモードにするには : Fnキーを押しながらSキーを押します。または、「PowerPanel」で設定します(104ページ)。
- 通常モードに戻すには : いずれかのキーを押します。外部マウスやキーボードを操作しても復帰します。

□ サスペンドモード(電源ランプゆっくり点滅)

現在作業中の状態を保持したまま、CPUの電源を切ります。翌日に作業を再開するときなどに便利です。サスペンドモードでバッテリーの残量がわずかになると、自動的にSave To Diskモードになります。このときは、復帰しても作業中の文書が失われることがありますのでご注意ください。

- サスペンドモードにするには : Fnキーを押しながらEscキーを押します。電源/サスペンドスイッチを⁹方向に2秒未満の間ずらしたり、「PowerPanel」で設定することもできます(104ページ)。
- 通常モードに戻すには : 本体のキーボードのいずれかのキーを押します。

□ Save To Diskモード(電源ランプ消灯)

現在作業中の状態をハードディスクに保存して、本機の電源を切ります。2~3日使わないようなときに便利です。

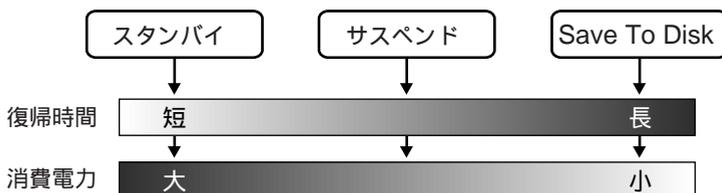
なお、Save To Diskモードからはタイマー起動できませんのでご注意ください。

- Save To Diskモードにするには：Fnキーを押しながらF12キーを押します。または、「PowerPanel」ソフトウェアを使って設定します(104ページ)。
- 通常モードに戻すには：電源/サスペンドスイッチで本機の電源を入れ直します。電源を入れると、前回の作業中の状態に戻ります。

ご注意

Save To Diskモードから通常モードに戻すときに、電源/サスペンドスイッチを2秒以上◀の方向にずらしたままにすると、ハードディスクに保存していたSave To Diskモードになる前の作業状態がすべて消去されて通常と同じように起動します。

復帰時間と消費電力について



赤外線通信を使用しているときのご注意

「赤外線モニター」が動作していると、本機の省電力モードが働かなくなるため、バッテリーの消耗が早まることがあります。

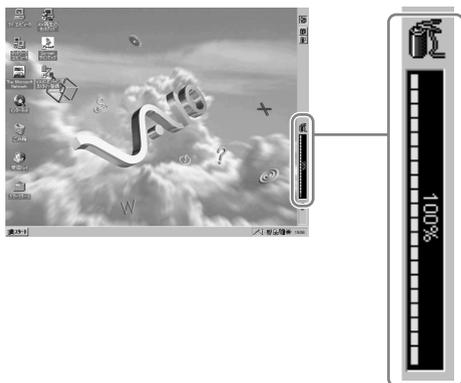
省電力モードを有効にするには、コントロールパネルの「赤外線モニター」を開き、「オプション」タブにある[次のポートで赤外線通信をしよう可能にする]のチェックをはずし、[OK]をクリックしてから、本機を再起動します。

バッテリーの残量を確認する

BatteryScopeを起動する

本機に付属している「BatteryScope」ソフトウェアを使うことで、本機に取り付けたバッテリーの状態を、パーセント表示または時間表示で確認できます。

画面右下のをダブルクリックすると、画面右側にPower PanelとBatteryScopeのアプリケーションバーが表示されます。



画面右下にが表示されていないときは

[スタート]ボタンをクリックして[VAIO]にポインターを合わせ、[ノートブックユーティリティ]を選び、[PowerPanel]をクリックします。

「PowerPanel」が起動し、画面右側にPowerPanelのアプリケーションバーが表示されます。

バッテリーアイコンの見かた

BatteryScopeのアプリケーションバーに表示されるバッテリーアイコンの種類と、バッテリーの状態は以下の通りです。

バッテリーアイコン	バッテリーの状態
	放電中
	充電中
	バッテリー未装着

アプリケーションバーの表示を変更したり、バッテリーの残量を知らせる警告を表示したりすることもできます
使用環境に合わせてアプリケーションバーの表示を変更したり、「BatteryScope」ソフトウェアの初期設定で用意されている警告表示や警告音を変更したりすることができます。
詳しくは、「BatteryScope」のヘルプをご覧ください。

バッテリー残量の見かた

画面右下の  をダブルクリックするか、またはアプリケーションバーのアイコンなどの表示をクリックすると、「BatteryScope」が表示され、バッテリーの予測使用可能時間や完全に充電されるまでの予測時間など、バッテリーについてより詳しい情報を見ることができます。



画面右下に  が表示されていないときは

[スタート] ボタンをクリックして [VAIO] にポインターを合わせ、[ノートブックユーティリティ] を選び、[BatteryScope] をクリックします。「BatteryScope」が起動し、画面右側に BatteryScope のアプリケーションバーが表示されます。

画面表示の設定を変更する

ディスプレイの設定を変更する

本機の解像度は、標準では800×600ドットに設定されています。ディスプレイの解像度と色数の設定の変更をするには、以下の手順に従ってください。

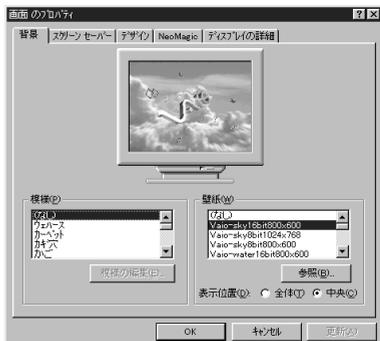
Windows 95のヘルプもあわせてご覧ください。

- 1 [スタート]ボタンをクリックして[設定]にポインターを合わせ、[コントロールパネル]をクリックする。
「コントロールパネル」が表示されます。



2 [画面]をダブルクリックする。

「画面のプロパティ」が表示されます。



3 [ディスプレイの詳細]タブをクリックする。



4 「カラーパレット」リストで色数を、「デスクトップ領域」のスライダーで解像度を設定する。

5 [OK]をクリックする。

設定が更新されます。

ご注意

設定によっては本機を再起動する必要があるものもあります。画面に表示される指示に従ってください。

👁️ 色数について

- 手順4の「カラーパレット」の設定と実際に表示される色数は以下の通りです。
High Color (16ビット) → 65536色
True Color (24ビット) → 約1677万色
なお、True Colorに設定しても、液晶ディスプレイの発色数は約26万色(18ビット)になります。
- True Color (24ビット)に設定すると、画面の描画速度が少し遅くなります。

表示するディスプレイを選ぶ

本機はNeoMagicビデオコントローラーを使用しています。別売りのポートリプリケーターに外部ディスプレイなどをつないでいる場合には、本機の液晶ディスプレイと外部ディスプレイのどちらに表示するか設定できます。

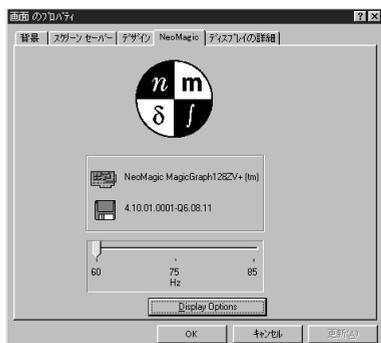
- 1 [スタート]ボタンをクリックして[設定]にポインターを合わせ、[コントロールパネル]をクリックする。
「コントロールパネル」が表示されます。



- 2 [画面]をダブルクリックする。
「画面のプロパティ」が表示されます。



- 3 [NeoMagic] タブをクリックする。
NeoMagicの設定項目が表示されます。



- 4 [Display Options] をクリックする。
「表示オプション」が表示されます。



- 5 「表示モード」から表示したいディスプレイの種類をクリックする。

設定	表示される機器
モニター	ポートリプリケーターのMONITORコネクターにつ ないだコンピューター用の外部ディスプレイ
LCDパネル	本機の液晶ディスプレイ
モニター/ LCDパネル	ポートリプリケーターのMONITORコネクターにつ ないだコンピューター用外部ディスプレイと、本機 の液晶ディスプレイ

6 [OK]をクリックする。
「画面のプロパティ」に戻ります。

7 [OK]をクリックする。
選んだディスプレイが有効になります。

 Fnキーとファンクションキーを組み合わせて押しても、表示するディスプレイを切り換えられます。

詳しくは、「Fnキーとの主な組み合わせと機能」(140ページ)をご覧ください。

ご注意

- 手順5の「表示モード」で[モニター]を選んだときは、手順3の画面にあるスライダーを動かして、リフレッシュレートを調整できます。
- 外部ディスプレイがポートリプリケーターのMONITORコネクタに接続されていないときは、「モニター」、「モニター/LCDパネル」は選択できません。

その他

第 4 章

使用上のご注意

本機の取り扱いについて

- 本体に手やひじをつくなどして力を加えないでください。本機の液晶ディスプレイはガラスできています。力を加えると、ガラスが割れてしまいます。
- 衝撃を加えたり、落としたりしないでください。記録したデータが消失したり、本機の故障の原因となります。
- 炎天下や窓をしめきった自動車内など、異常な高温になる場所には置かないでください。本機が変形し、故障の原因となることがあります。
- クリップなどの金属物を本機の中に入れないでください。
- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。

結露について

結露とは本機を寒い場所から急に暖かい場所に持ち込んだときなどに、本機の表面や内部に水滴がつくことで、そのままご使用になると故障の原因となります。

結露が起きたときは、電源を入れずに約1時間放置してください。

液晶ディスプレイについて

- 液晶ディスプレイの表面を濡れたもので拭かないでください。内部に入ると故障の原因となります。
- 液晶ディスプレイに物をのせたり、落としたりしないでください。また、手やひじをついて体重をかけないでください。
- 本機を戸外など寒冷な場所から室内へ持ち込むと、液晶ディスプレイに結露が生じることがあります。結露が生じたら、水滴をよく拭き取ってからご使用ください。水滴を拭き取るときは、ティッシュペーパーをお使いになることをおすすめします。液晶面が冷えているときは、水滴を拭き取っても、また結露が生じてしまいます。液晶面が室温に暖まるまでお待ちください。
- 液晶ディスプレイは非常に精密度の高い技術でつくられていますが、黒い点が現れたり、赤と青、緑の点が消えないことがあります。故障ではありません。(有効画素99.99%以上)

ハードディスクの取り扱いについて

ハードディスクは、フロッピーディスクに比べて記憶密度が高く、データの書き込みや読み出しに要する時間も短いという特長があります。その一方、本来はほこりや振動に弱い装置でもあります。また、フロッピーディスク同様に磁気を帯びた物に近い場所での使用は避けなければなりません。

ハードディスクにはほこりや振動からデータを守るための安全機構が組み込まれていますが、記憶したデータを失ってしまうことのないよう、次の点に特にご注意ください。

- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。
- 電源を入れたまま、本機を動かさないでください。
- データの書き込み中や読み込み中は、電源を切ったり再起動したりしないでください。
- 急激な温度変化（毎時10 以上の変化）のある場所では使用しないでください。

何らかの原因でハードディスクが故障した場合、データの修復はできませんのでご注意ください。

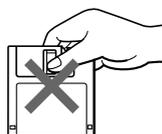
バックアップを取る

ハードディスクは非常に多くのデータを保存することができますが、その反面、ひとたび事故で故障すると多量のデータが失われ、取り返しのつかないこととなります。万一のためにも、ハードディスクの内容は定期的にバックアップを取ることをおすすめします。アプリケーションプログラムはオリジナルがCD-ROMやフロッピーディスクにありますので、バックアップが必要なのはデータなどです。ハードディスクのバックアップ、バックアップの内容の戻しかたについて詳しくは、Windows 95のヘルプをお読みください。

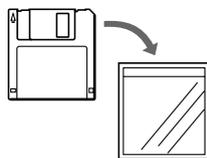
フロッピーディスクの取り扱いについて

フロッピーディスクに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものに近づけないでください。フロッピーディスクに記録されているデータが消えてしまうことがあります。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しないでください。フロッピーディスクが変形し、使用できなくなります。
- 手でシャッターを開けてディスクの表面に触れないでください。フロッピーディスクの表面の汚れや傷により、データの読み書きができなくなることがあります。



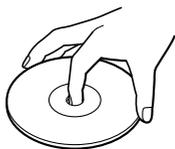
- フロッピーディスクに液体をこぼさないでください。
- 大切なデータを守るため、フロッピーディスクはフロッピーディスクドライブから取り出して、必ずケースなどに入れて保管してください。



CD-ROMの取り扱いについて

CD-ROMに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

- 文字の書かれていない面（再生面）に触れないようにして持ちます。



- 紙などを貼ったり、傷つけたりしないでください。



- ほこりやちりの多いところ、直射日光の当たるところ、暖房器具の近く、湿気の多いところには保管しないでください。
- CD-ROMに液体をこぼさないでください。
- 大切なデータを守るため、CD-ROMは必ずケースなどに入れて保管してください。

ACアダプターについて

本機には、付属のACアダプター（極性統一形プラグ・EIAJ規格）をご使用ください。上記以外のACアダプターを使用すると、故障の原因になることがあります。



極性統一形プラグ

コンピューターウイルスについて

コンピューターウイルスとは、コンピューターの中のファイルやプログラムに悪影響を与えるプログラムのことです。ほとんどがいたずら半分で作成されたものですが、下記の「コンピューターウイルスに侵入されると...」に見られるような被害が起きてしまいます。コンピューターウイルスは他のプログラムと異なり、それ自体が増殖し、データのコピーなどを通じて他のコンピューターにも悪影響を及ぼしていきます。

コンピューターウイルスに侵入されると...

- 意味不明なメッセージや、ウイルスが侵入したことを知らせるメッセージが画面上に表示される。
- ファイルが勝手に消去される。
- ハードディスク上の情報が意味のないもの書き換えられる。
- 画面上に意味のないものが表示される。
- ハードディスク上の空き容量が急に小さくなる。

コンピューターウイルスを侵入させないために

- ・ 見知らぬ人から送られてきた、またはネットワーク経由で入手した文書やプログラムなどのデータは必ずウイルスチェックをする。
- ・ コンピューターウイルスはフロッピーディスクなどを介して広がる場合がありますので、他人のフロッピーディスクなどを使うときはご注意ください。フロッピーディスクなどのデータを共有する場合は、共有する人を限定してください。

ウイルスが侵入して被害を受けてしまったときに備えて、日頃から作成した文書の控えをとる習慣をつけましょう。

ソフトウェアの不正コピーは禁止されています

本機に付属のソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティ契約のもとに供給されています。これらのソフトウェアを不正にコピーすることは法律で禁止されています。

また、店頭で購入したソフトウェアを人に貸したり、人からソフトウェアを借りてコピーして使うことは禁じられています。ソフトウェアの使用許諾書をよくお読みのうえ、お使いください。

データのバックアップについて

ハードディスクドライブに保存している文書などのデータは、定期的にバックアップをとるようおすすめします。データの損失については、一切責任を負いかねます。

ソフトウェアと周辺機器の動作について

一般的にWindows 95用、DOS/V用などを表記している市販ソフトウェアや周辺機器の中には、本機で使用できないものがあります。

ご購入に際しては、販売店または各ソフトウェアおよび周辺機器の販売元にご確認ください。

市販ソフトウェアおよび周辺機器を使用された場合の不具合や、その結果生じた損失については、一切責任を負いかねます。

お手入れ

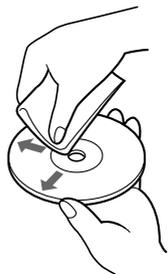
- 本機についたゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。
- 液晶ディスプレイは、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。汚れてきたと思ったら、こまめに拭くように心がけてください。

ご注意

- 濡れたもので液晶ディスプレイを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。
化学ぞうきんをお使いになるときは、その注意書きに従ってください。

CD-ROMのお手入れ

- 指紋やほこりによるディスクの汚れは、読みとりエラーの原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でディスクの中心から外の方へ軽く拭きます。



- 汚れがひどいときは、水で少し湿らせた布で拭いたあと、さらに乾いた布で水気を拭き取ってください。
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などはディスクを傷めることがありますので、使わないでください。

保証書と アフターサービス

保証書

- この製品は保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店からお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より3ヶ月間です。ユーザー登録していただいたお客様は1年間になります。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックをこの取扱説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはITテクニカルレスポンスセンターへご連絡ください

ITテクニカルレスポンスセンターについては、添付の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。

詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。

修理について

当社ではノートブックコンピューターの修理は引取修理を行っています。当社指定業者がお客様宅に修理機器をお引き取りにうかがい、修理完了後にお届けします。詳しくは添付の「VAIOサービス・サポートのご案内」をご覧ください。

データのバックアップのお願い

修理に出すまえに、ハードディスクなどの記録媒体のプログラムおよびデータは、お客様にてバックアップされますようお願いいたします。弊社の修理により、ハードディスク内のプログラムおよびデータが万一消去あるいは変更された場合に関しても、弊社は一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

なお、ハードディスクなどの記録媒体そのものの故障の場合には、プログラムおよびデータの修復はできません。

交換部品の所有権について

修理によって交換された旧部品は、弊社の所有となりますので、あらかじめご了承ください。

部品の保有期間について

当社ではノートブックコンピューターの補用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、お買い上げ店か、ITテクニカルレスポンスセンター修理窓口にご相談ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 型名：PCG-505
- 製造番号：
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：

主な仕様

本体

プロセッサ

MMX®テクノロジー Pentium®プロセッサ
133 MHz

チップセット

Mobile Triton II (430TX) PCIチップセット

2次キャッシュ

256 Kバイト (パイプラインバーストDRAM)

メインメモリー

32 Mバイト (EDORAM)
最大64Mバイトまで拡張可能

メモリースロット

専用メモリースロット (1)

グラフィックアクセラレーター

128ビット高速グラフィックアクセラレーター
NeoMagic MagicGraph 128ZV+
(NM2097)

ビデオメモリー

1 Mバイト (ビデオチップ内蔵)

液晶ディスプレイ表示モード

800 × 600ドット (65,536色)
640 × 480ドット (約26万色)

外部ディスプレイ表示モード

1,024 × 768ドット (256色)
800 × 600ドット (65,536色)
640 × 480ドット (約1,677万色)

フロッピーディスクドライブ

3.5インチ、1.44 Mバイト / 1.2 Mバイト /
720 Kバイト

ハードディスクドライブ

1.0 Gバイト
(1 Gバイト=10億バイトで算出)

外部接続端子

FDDコネクター

専用コネクター、26ピン (1)

ポートリプリケーターコネクター

専用コネクター、68ピン (1)

USBコネクター¹⁾

USB4ピン (1)

ライン入力コネクター

ステレオミニジャック (1)

ヘッドフォン出力コネクター

ステレオミニジャック (1)

モデムコネクター

モジュージャック (1)

赤外線ポート

IrDA 1.1、最大4 Mbps (1)

外部スピーカーコネクター

専用コネクター (2)

¹⁾ 将来の拡張用です。

PCカードスロット

Type I / II × 1、ZV portおよびCardbus対応

オーディオ機能

SoundBlasterPro互換 (16ビットステレオ)、
モノラルスピーカー

内蔵ファックスモデム

33,600bps (V.34) / 14,400bps (ファックス
ス時)、ボイス機能対応、ハンズフリー電話機
機能対応

ポインティングデバイス

タッチパッド、ペン操作対応

電源・その他

電源

ACアダプターまたはバッテリーパック

バッテリー駆動時間

標準タイプ 約1.5～3時間

大容量タイプ 約3～6時間

動作温度

5 ～35 (温度勾配10 /時以下)

動作湿度

10%～90%(結露のないこと)

動作湿球温度

29 以下

保存温度

-20 ～60 (温度勾配10 /時以下)

保存湿度

10%～90%(結露のないこと)

保存湿球温度

29 以下

外形寸法

約259×23.9×208 mm(幅/高さ/奥行き)

質量

約1.35 kg(標準タイプバッテリー装着時)

ACアダプター

電源

AC 100～240 V、50/60 Hz

消費電力

最大40 W

出力電圧・電流

最大16 V、2.1 A

動作温度

5 ～35 (温度勾配10 /時以下)

動作湿度

10%～90%(結露のないこと)

保存温度

-20 ～60 (温度勾配10 /時以下)

保存湿度

10%～90%(結露のないこと)

外形寸法

約49×26×128 mm(幅/高さ/奥行き)

質量

約240 g

バッテリーパック

出力電圧・容量

11.1 V、1550 mAh

動作温度

5 ～35 (温度勾配10 /時以下)

動作湿度

10%～90%(結露のないこと)

保存温度

-20 ～60 (温度勾配10 /時以下)

保存湿度

10%～90%(結露のないこと)

外形寸法

約204.6×22×24.6 mm

(幅/高さ/奥行き)

質量

約162 g

付属品・別売り品

付属品

「付属品を確認してください」をご覧ください。

別売り品

ACアダプター

PCGA-AC5

バッテリーパック

PCGA-BP51(標準タイプ)

PCGA-BP52(大容量タイプ)

ポトリプリケーター

PCGA-PR5

メモリーモジュール

32Mバイト増設メモリーモジュール

PCGA-MM532

外部ステレオスピーカー

PCGA-SP5

CD-ROMドライブユニット

PCGA-CD5

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

ソフトウェアをアンインストールする /再インストールする

ハードディスクの空き容量が足りないために、新しいソフトウェアをインストールできないときは、すでにインストールされているソフトウェアをハードディスクから削除(アンインストール)できます。

ソフトウェアをアンインストールする

- 1 [スタート]ボタンをクリックし、[設定]にポインターを合わせて[コントロールパネル]をクリックする。
「コントロールパネル」が表示されます。
- 2 [アプリケーションの追加と削除]をダブルクリックする。
「アプリケーションの追加と削除のプロパティ」が表示されます。



- 3 [セットアップと削除]タブをクリックする。
- 4 削除したいソフトウェアをクリックしてから、[追加と削除]をクリックする。
アンインストーラーが起動し、「ファイル削除の確認」が表示されます。
- 5 「はい」をクリックする。
選んだソフトウェアがアンインストールされます。

ソフトウェアを再インストールする

アンインストールしたソフトウェアを再インストールすることもできます。

本機に付属しているソフトウェアは、付属のProduct Recovery CD-ROM(以降、リカバリーCDと略します)を使って再インストールします。

ソフトウェアによって再インストールのしかたが異なります

- ソニー製のソフトウェアの場合
詳しくは、それぞれのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
- ソニー製以外のソフトウェアの場合
「リカバリーCDで本機を再セットアップする」(130ページ)をご覧ください。

ご注意

- 付属のリカバリーCDを使うには、別売りのCD-ROMドライブが必要です。
- リカバリーCDを使うまえに、大切なデータはバックアップをとっておいてください。

リカバリーCDで本機を再セットアップする

ここでは、別売りのCD-ROMドライブで付属のProduct Recovery CD-ROM(以降、リカバリーCDと略します)を使って、本機を再セットアップする方法を説明します。

リカバリーCDとは

リカバリーCDには、出荷時のハードディスク中のすべてのファイルが保存されています。誤ってハードディスクを初期化してしまったり、ブリンストールされているソフトウェアを消してしまった場合には、リカバリーCDを使ってハードディスクの内容を出荷時の状態に戻すことができます。

リカバリーCDを使うと、次のことができます

- ハードディスクを初期化したうえで、すべてのファイルを復元する。
- ハードディスクを初期化せずに、すべてのファイルを復元する。

ご注意

- 本機専用のCD-ROMドライブPCGA-CD5以外のCD-ROMドライブをお使いのときは、リカバリーCDを使うために起動用ディスクを作成する必要があります。起動用ディスクを作成しないと、Windowsが起動できなくなった場合でも、リカバリーCDを使って本機を再セットアップすることができなくなります。正常に動作しているときに起動用ディスクを作成するようおすすめします。
- 付属のリカバリーCDは本機でのみ使用できます。他の製品では動作しません。
- リカバリーCDで再セットアップできるのは、本機に標準で付属されているソフトウェアのみです。ご自分でインストールしたソフトウェアや、作成したデータを復元することはできません。
- ご自分で変更された設定は、再セットアップ後はすべて初期値に戻ります。再セットアップ後に、もう1度設定し直してください。
- ハードディスクを初期化した場合、それ以前にハードディスク上にあったファイルはすべて消えてしまいます。また、ハードディスクを初期化しない場合でも、ハードディスク上のファイルが保存されることを保証するものではありません。再セットアップを行う前に、大切なデータは必ずフロッピーディスクに保存するなどして、バックアップをとっておいてください。
- ハードディスクを初期化せずにすべてのファイルを復元した場合、システムが正常に動作しないことがあります。このような場合は、もう1度再セットアップを行って、ハードディスクを初期化してから、すべてのファイルを復元してください。
- リカバリーCDで再セットアップしたあと、続いてWindows 95のセットアップを行う必要があります。その際、付属のMicrosoft Windows 95 ファーストステップガイドの表紙に記載されている、Product IDが必要になります。Microsoft Windows 95 ファーストステップガイドは大切に保管してください。

準備する

- 1 CD-ROMドライブを本機に取り付ける。
詳しくは、「CD-ROMをつなぐ」(79ページ)をご覧ください。
- 2 本機をACアダプターにつなぎ、AC電源を接続する。

再セットアップする

別売りのCD-ROMドライブPCGA-CD5をお使いのときは、以下のよう
に操作します。PRD-650/250をお使いのときは、次ページをご覧ください。

- 1 付属のリカバリーCDをCD-ROMドライブに入れてから、本機の
電源を入れる。
「Product Recovery CD-ROM リストアユーティリティ」画面が表示
されます。
- 2 「BIOSの設定値を初期化するためにコンピューターを再起動して
もいいですか (Yes/NO)?」と表示されたら、Yキーを押してか
らEnterキーを押す。
本機が再起動します。
- 3 「COMS default values have been loaded. Press <F1> to
reboot.」と表示されたら、F1キーを押す。
本機が再起動し、「Product Recovery CD-ROM リストアユーティ
リティ」が起動します。
- 4 画面の指示に従って操作し、「(Yes/No)?」が表示されたときは、
Yキーを押してからEnterキーを押す。
本機の再セットアップが始まります。
作業中にEscキーを押すと再セットアップを中断することもできま
すが、その場合は再セットアップをはじめからやり直す必要がありま
す。
再セットアップが終わるとメッセージが表示されるので、画面の指示
に従って本機を再起動してください。

PRD-650 / 250用の起動ディスクを作成する

ソニー製のCD-ROMドライブPRD-650 / 250をお使いの場合には、以下の手順で起動用ディスクを作成できます。

準備する

本機でPRD-650 / 250を使用できる状態にしておく。

- PRD-650 / 250のWindows接続キットに付属しているフロッピーディスク内の、[setup.exe]をダブルクリックして実行する。
- PRD-650 / 250を本機に接続しておく。
- フロッピーディスクドライブを本機に接続しておく。

起動用ディスクを作成する

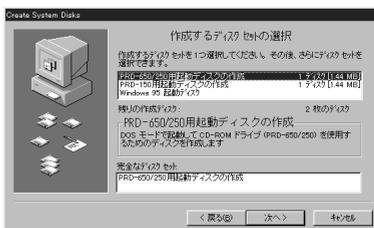
- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[プログラム] にポインターを合わせ、[アクセサリ] を選び、[システムツール] の[Create System Disks] をクリックする。

「Create System Disks」が表示されます。



- 2 [次へ>] をクリックする。

「作成するディスク セットの選択」が表示されます。



- 3 リストの中から使用するCD-ROMドライブを選び、[次へ>] をクリックする。

4 フロッピーディスクを入れる。

フロッピーディスクに「PRD-650 / 250起動ディスク」と書いたラベルを貼ってから、フロッピーディスクドライブに入れます。



5 警告画面が出たら、[フォーマット]をクリックする。

フォーマットが始まります。

フォーマットが終わると、引き続いて必要なファイルのコピーが始まります。

6 「起動ディスクの作成 完了」が表示されたら、[キャンセル]をクリックする。

「Create System Disksの終了」が表示されます。



7 [完了]をクリックする。

8 エクスプローラなどを使って、「C¥SONYSC」フォルダ内の「ASPI2DOS.SYS」と「ASPICD.SYS」の2つのファイルを、作成したフロッピーディスク内の「¥CDROM」フォルダ内にコピーする。

これで起動ディスクの作成は終了です。

起動ディスクを確認する

作成した起動ディスクで、CD-ROMドライブを使用できるかどうか確かめます。

- 1 本機の電源を切る。
- 2 作成したフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに入れてから、電源を入れる。
- 3 本機が起動したら、以下のように入力する。
A: ¥ >dir g:
Gドライブの内容が表示されます。
「無効なドライブの指定です」と表示されたときは、起動ディスクを正常に作成でなかった可能性があります。「起動ディスクを作成する」(132ページ)の手順をはじめからやり直してください。
- 4 本機の電源を切る。

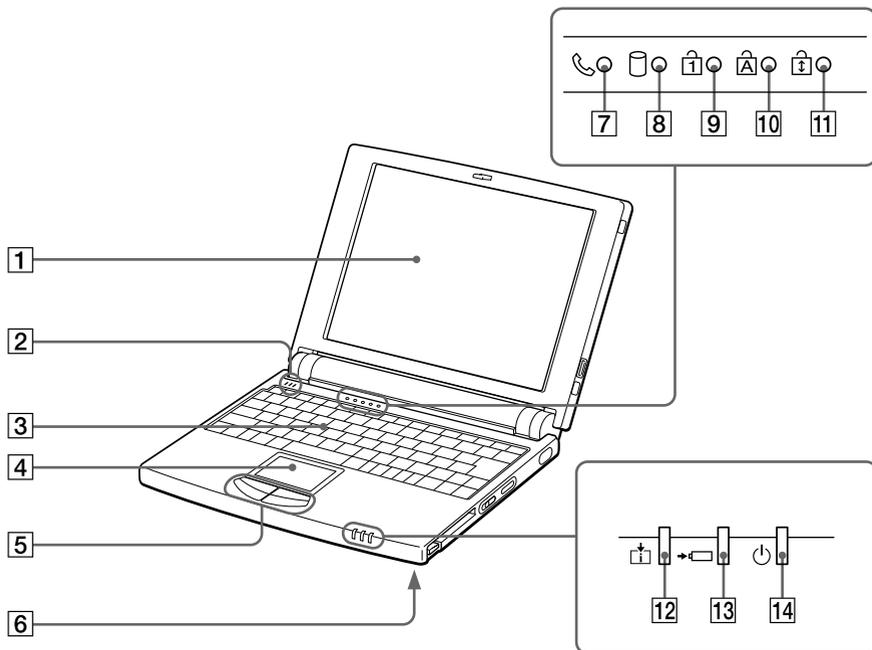
本機を再セットアップするときは

起動ディスクを使って本機を再セットアップするときは、次の手順に従って操作してください。

- 1 CD-ROMドライブを本機につなぎ、付属のリカバリーCD-ROMを入れる。
- 2 フロッピーディスクドライブを本機につなぎ、作成した起動ディスクを入れてから、本機の電源を入れる。
- 3 以下のように入力してからEnterキーを押す。
A: ¥ >g:install.bat
- 4 「再セットアップする」(131ページ)の手順2と3を実行する。
- 5 起動用ディスクから起動したら、もう1度「g:install.bat」と入力し、Enterキーを押す。
「Product Recovery CD-ROM リストアユーティリティ」が起動します。
- 6 131ページの手順4を行う。
本機の再セットアップが始まります。
詳しくは、画面の指示にしたがって操作してください。

各部のなまえ

詳しい説明は、()内のページをご覧ください。

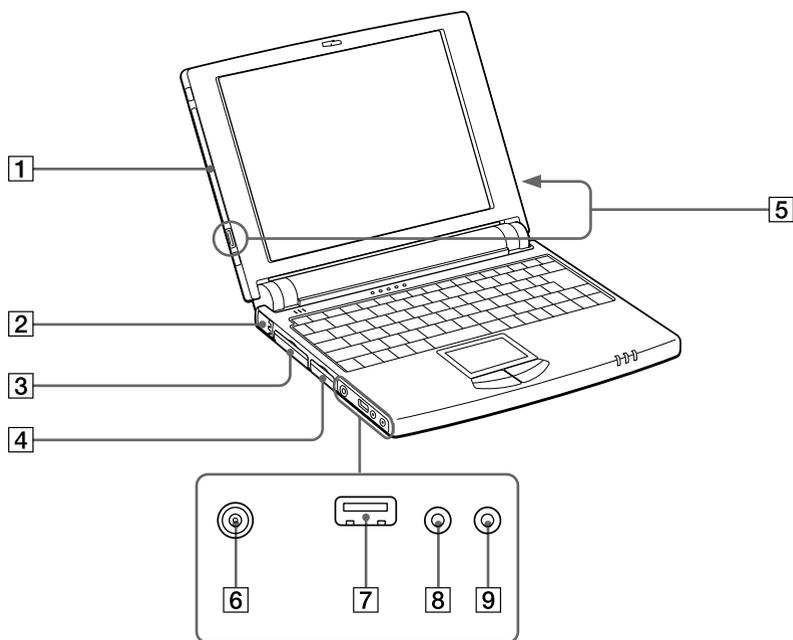


- 1 液晶ディスプレイ
(120、140ページ)
- 2 内蔵マイク(53、64ページ)
- 3 キーボード(24、139ページ)
- 4 タッチパッド(22ページ)
- 5 左/右ボタン(22ページ)
- 6 内蔵スピーカー
(64、140ページ)
- 7 (モデム)ランプ

- 8 (ハードディスク)ランプ
- 9 (Num Lock)ランプ
(143ページ)
- 10 (Caps Lock)ランプ
- 11 (Scroll Lock)ランプ
- 12 (インフォメーション)ランプ
- 13 (バッテリー)ランプ
(39ページ)
- 14 (電源)ランプ(19ページ)

その他

本機左側面



① ペンホルダー (49ページ)

② モジュラージャック (76ページ)

③ ポートリプリケータコネク
ター (70、84ページ)

④ FDDコネクター
(34ページ)

⑤ 外部スピーカーコネクター
(83ページ)

⑥ ⚡ (DC IN) コネクター
(18ページ)

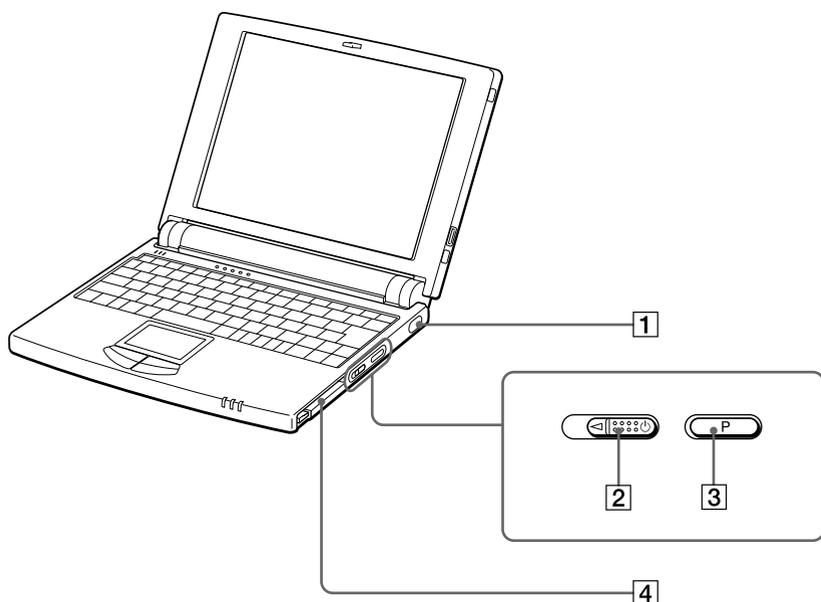
⑦ Ψ (USB) コネクター ¹⁾

⑧ ⇄ (LINE IN) コネクター

⑨ Ⓜ (ヘッドホン) コネクター
(88ページ)

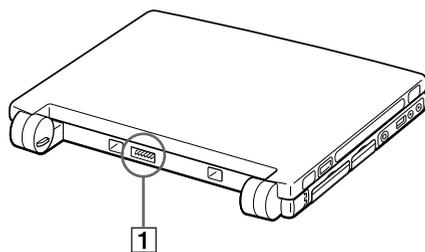
¹⁾ 将来の拡張用です。

本機右側面



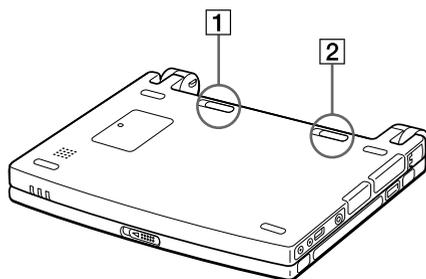
- 1 赤外線通信ポート
(68、81ページ)
- 2 電源 / サスペンドスイッチ
(19、20ページ)
- 3 プログラマブルパワーキー
(55ページ)
- 4 PCカードスロット
(79、89ページ)

本機後面



- 1 バッテリーコネクタ
(40ページ)

本機底面



- 1 ロックレバー(40ページ)
2 取りはずしレバー(41ページ)

キーボードショートカット

Windowsキーとの主な組み合わせと機能

キー操作の表記

例：Windowsキーを押しながらFキーを押す。→  + F

組み合わせ	機能
 + F1	Windowsのヘルプを表示します。
 + Tab	タスクバーに表示されているボタンの選択を切り換えます。
 + E	エクスプローラー ¹⁾ を表示します。
 + F	「ファイルやフォルダ」の検索ウィンドウを表示します。 [スタート]メニューから[検索]の[ファイルやフォルダ]を選んだときと同じです。
 + Ctrl + F	「ほかのコンピュータ」の検索ウィンドウを表示します。 [スタート]メニューから[検索]の[ほかのコンピュータ]を選んだときと同じです。
 + M	表示されているすべてのウィンドウを最小化します。
Shift +  + M	最小化されているすべてのウィンドウを元のサイズに戻します。
 + R	「ファイル名を指定して実行」を表示します。 [スタート]メニューから[ファイル名を指定して実行...]を選んだときと同じです。
 + Fn + Insert ²⁾	「システムのプロパティ」を表示します。 「コントロールパネル」の[システム]をクリックしたときと同じです。

¹⁾ コンピューターの内容(ファイルやフォルダー)をツリー図で表示します。作成したファイルなどがコンピューターのどこに保存されているか、一目で確認できます。

²⁾ 本機でのみの操作です。他機で操作する場合は、 + Pauseを押します。

Fnキーとの主な組み合わせと機能

キー操作の表記

例：Fnキーを押しながらEsc(エスケープ)キーを押す。⇒ Fn +  (Esc)

組み合わせ	機能
Fn +  (Esc)	本機の液晶ディスプレイとハードディスクドライブへの電源供給を停止して、使用電力を削減します。CPUへの電源供給も停止します。(サスペンドモード)
Fn +  (F2)	使用電源の状況を表示します。 例)  AC電源で使用
Fn +  (F3)	本機の内蔵スピーカーの音声を入/切します。
Fn +  (F4)	本機の内蔵スピーカーの音量が調節できます。このコマンドを実行すると、数秒間だけ音量表示が表示されます。このときに または キーを押すと大きくなり、 または キーを押すと小さくなります。(64段階で調節できます)。
Fn +  (F5)	液晶ディスプレイの明るさを調節できます。このコマンドを実行すると、数秒間だけ明るさ表示が表示されます。このときに または キーを押すと明るい画像になり、 または キーを押すと暗い画像になります。(5段階で調節できます)。
Fn +  (F7)	ポトリプリケーター(別売り)のMONITORコネクタに接続した外部ディスプレイと、本機の液晶ディスプレイの表示を切り換えます。 液晶ディスプレイのみ 液晶ディスプレイと外部ディスプレイ同時表示 外部ディスプレイのみ 液晶ディスプレイのみ ...
Fn +  (F12)	本機の液晶ディスプレイとハードディスクドライブだけでなく、CPUやRAMへの電源供給も停止します。使用環境はハードディスクに書き込まれるので、復帰後もそのまま作業できます。(Save To Diskモード)
Fn + F	液晶ディスプレイの解像度を640×480ドットに設定しているときに、液晶ディスプレイの表示を拡大/縮小できます。
Fn + D	液晶ディスプレイへの電源を切り、ビデオスタンバイ状態になります。いずれかのキーを押すともとの状態に戻ります。
Fn + S	本機の液晶ディスプレイとハードディスクドライブへの電源供給を停止して、使用電力を削減します。ただし、CPUへの電源供給は停止しないため、サスペンドモード(Fn+Esc)よりも早く通常の動作状態に復帰できます。(スタンバイモード)

故障かな？と思ったら

ITテクニカルレスポンスセンターにご相談になる前にもう1度チェックしてみてください。それでも具合が悪いときはITテクニカルレスポンスセンターまたはお買い上げ店にご相談ください。

ご注意

接続し直すときは、かならず「電源を切るには」(19ページ)の手順にしたがい、いったん電源を切ってください。

症状	原因 / 対策
電源が入らない。	<ul style="list-style-type: none">• 本機とACアダプター、ACアダプターと電源コード、電源コードとコンセントがそれぞれしっかりつながっているか確認する。• バッテリーが正しく装着されているか確認する。• バッテリーが放電しきっている。バッテリーを充電し、電源を入れ直す。• 結露している。1時間くらい待って電源を入れ直す。• 内蔵バックアップバッテリーが消耗している。ACアダプターをつないだまま十数分放置してから、電源を入れ直す。
液晶ディスプレイに何も表示されない。	<ul style="list-style-type: none">• ビデオスタンバイモードになっている。いずれかのキーを押す。• 外部ディスプレイに表示が切り換えられている。Fnキーを押しながら、F7キーを何回か押す。
外部ディスプレイの表示サイズ、表示位置がおかしい。	ディスプレイの調整つまみで設定する。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。

症状	原因 / 対策
画面上のポインターが動かない。	<ul style="list-style-type: none"> • Fnキーを押して[スタート]メニューを表示させ、キーまたは キーを押して[Windowsの終了]を選び、Enterキーを押す。 • 上記の操作で電源が切れないときは、CtrlキーとAltキーを押しながらDeleteキーを押し、本機を再起動する。 • 上記の操作でも何も起こらないときは、電源 / サスペンドスイッチを2秒以上<の方向にずらして電源を切る。 • CD-ROMを再生しているときなどに、ポインターが動かなくなってしまった場合は、CtrlキーとAltキーを押しながらDeleteキーを押し、CD-ROMの再生を強制的に終わらせ、本機を再起動する。
フロッピーディスクが取り出せない。	36ページをご覧ください。
電源を入れた後、「No System disk or disk error. Replace and press any key when ready.」というメッセージが出て、ハードディスクを立ち上げられない。	<p>フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブに入っているときは、イジェクトボタンを押して、取り出す。</p> <p>その後、キーボードのいずれかのキーを押す。</p>
「マイコンピュータ」からフロッピーディスクを選んで初期化しようとしたができない。	<ul style="list-style-type: none"> • フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。(37ページ) • フロッピーディスクがフロッピーディスクドライブにきちんと入っているか確認する。 • 「アプリケーションが使用中です」というメッセージが出たときは、フロッピーディスクの内容がウィンドウで表示されている。ウィンドウ表示されているときは初期化できないので、フロッピーディスクのウィンドウを閉じる。
「ディスクがいっぱいです」というメッセージが表示され、ファイルなどをフロッピーディスクに保存できない。	フロッピーディスクの容量の空きがない。容量の空きが充分にある、別のフロッピーディスクを使って保存し直す。

症状	原因 / 対策
「書き込み禁止」というメッセージが表示された。	フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。(37ページ)
スピーカーから音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> • 本機の内蔵スピーカーが「切」になっている。Fnキーを押しながら、F3キーを押す。(140ページ) • 本機の内蔵スピーカーの音量が最小になっている。Fnキーを押しながら、F4キーを押したあと、またはキーを押して音量を上げる。(140ページ) • 外部スピーカーをお使いの場合は、本機とスピーカーが正しく接続されているか確認する。 • 外部スピーカーの音量が最小になっている。音量つまみで音量を上げる。詳しくは、スピーカーに付属の取扱説明書をご覧ください。 • 〇コネクタにケーブルをつないでいるときは、ケーブルをはずす。
Fnキーを押しながらF3キーを押すと「Sound Disable」と表示される。	「システムのプロパティ」画面の「デバイスマネージャ」タブをクリックしてから、サウンドデバイスを使用できるように設定する。
内蔵マイクで音声を録音すると雑音が入る。	ハードディスクのアクセス音が録音されてしまうため、故障ではありません。
日本語が入力できない。	「文字を入力する」(26ページ)をご覧ください。
アルファベットのかわりに数字が入力される。	Num Lkキーを押して、  (Num Lock) ランプを消灯させる。
入力した文字が表示されない。	文字を入力したいアプリケーションソフトウェアのウィンドウが前面に出ていない。(画面上では薄い色のウィンドウになります。)ウィンドウのどこかをクリックするか、AltキーとTabキーを同時に押して目的のアプリケーションソフトウェアを前面に出し、使える状態にする。
URLで使われる半角の「~」が入力できない。	MS-IME97ツールバーで「直接入力」または「半角英数」を選び、Shiftキーを押しながら「^」を押す。MS-IME97ツールバーについて詳しくは、「文字を入力する」(26ページ)をご覧ください。
全角の「~」が入力できない。	MS-IME97ツールバーで「全角ひらがな」を選んで、ひらがなで「から」と入力し、「~」が選ばれるまでスペースキーを押す。MS-IME97ツールバーについて詳しくは、「文字を入力する」(26ページ)をご覧ください。

症状	原因 / 対策
指がタッチパッドの端までできてしまい、これ以上動かせない。	指をいったんタッチパッドからはなし、中央に戻す。
ハードディスクから起動できない。	フロッピーディスクドライブに、フロッピーディスクが入っていないか確認する。
CD-ROMドライブから起動できない。	<ul style="list-style-type: none"> 別売りのCD-ROMドライブPCGA-CD5以外のCD-ROMからは、本機を起動できません。 BIOSの設定が変更されてしまっている可能性がある。「BIOS Setup」画面で[Get Default Values]を選び、BIOSの設定を工場出荷時の設定に戻す。「BIOS Setup」画面にするには、F2キーを押したまま本機の電源を入れ、「BIOS Setup」画面が表示されるまでF2キーを押し続けます。
誤ってハードディスクを初期化してしまった。	リカバリーCDを使って、本機を再セットアップする必要があります。「リカバリーCDで本機を再セットアップする」(130ページ)をご覧ください。
画面上のすべてのものが動かなくなりました。	CtrlキーとAltキー、Deleteキーを同時に押す。
電源が切れない。	電源 / サスペンドスイッチを2秒以上< の方向にずらす。
PCカードが使えない。	<ul style="list-style-type: none"> Windows 95対応でないPCカードは使えません。 「コントロールパネル」の「PCカード」を開いて[設定]タブをクリックし、[自動選択]をクリックしてチェックをはずす。
モデムが使えない。または、「モデムが Communication Center によって検出されていません。」などのメッセージが表示される。	<ul style="list-style-type: none"> PowerPanelの「モデム オン」ボタンで、モデムをオンにする(106ページ)。 PowerPanelのプロファイルマネージャーでモデムパワーの設定が「オン」になっていることを確認する。詳しくは、「PowerPanel」のヘルプをご覧ください。
ゲームをしているときや、動画を再生しているときの動きがぎこちない。	PowerPanelの「スピードコントローラー」をクリックして、「Auto」のチェックをはずし、スピードコントローラーを「100%」に設定する。詳しくは、「PowerPanel」のヘルプをご覧ください。

索引

五十音順

ア

- アンインストール 128
- インストール
 - アンインストールする 128
 - 再インストールする 129
- インターネット
 - インターネットとは 42
 - インターネットを楽しむ 43
- 液晶ディスプレイ 120、135、140
- 液晶プロジェクター
 - 液晶プロジェクターをつなぐ 88
- 音楽CD
 - CDを再生する 72
- オンラインヘルプ 15

カ

- 外部スピーカー
 - 外部スピーカーをつなぐ 83
- 外部ディスプレイ
 - 外部ディスプレイをつなぐ 87
- キーボード
 - キーボードショートカット 139
 - キーボードを使う 24
 - キーボードをつなぐ 88
- 起動ディスク
 - 起動ディスクを指定する 98
 - 起動用ディスクを作成する 132
- クリック 23
 - ダブルクリック 23
 - 右クリック 23
- 結露 120
- コンピューターウイルス 122

サ

- 再起動 21
- サイバースhoot
 - サイバースhootから画像を取り込む 13、81
- サスペンドモード 108、140
- 省電力動作モード 108
 - サスペンドモード 20、108、140
 - スタンバイモード 108、140
 - Save To Diskモード 20、108、140

- シリアルコネクタ 70
- スタンバイモード 108、140
- スピーカー
 - 内蔵スピーカー 64、135、140
 - 外部スピーカーをつなぐ 83
- 赤外線
 - 赤外線データ通信 68、81
 - 赤外線データ通信の設定を変更する 95
 - 赤外線通信ポート 68、81
- ソフトウェア 73
 - 手書きメモ 50
 - 手書きワープロ 51
 - 不正コピー禁止について 123
 - ボイスメモ 53
 - ワードパッド 27
 - BatteryScope 110
 - Communication Center 61
 - Community Place Browser 73
 - Media Bar 72
 - Navin' You Lite 73
 - PictureGear Lite 73、81
 - PowerPanel 104
 - Sony Notebook Setup 94
 - TranXit 68

タ

- ターミナルアダプターカード 90
- タッチパッド
 - クリックする 23
 - タッチパッドを使う 22
 - ダブルクリックする 23
 - ドラッグする 23
 - 右クリックする 23
- ダブルクリック 23
- ディスプレイ
 - 外部ディスプレイをつなぐ 87
 - ディスプレイの設定を変更する 113
 - 表示するディスプレイを選ぶ 115
- ディスプレイパネル
 - 開く 18
- 手書きメモ 50
- 手書きワープロ 51
- デジタルスチルカメラ
 - デジタルスチルカメラから画像を取り込む 81
 - デジタルスチルカメラを使う 81
- データ
 - 書き込み禁止にする 37
 - バックアップをとる 123
 - やりとりする 68

電源

- 電源を入れる 18
- 電源を切る 19

電話

- 電話を受ける 65
- 電話をかける 64
- 電話を準備する 61
- 留守番電話として使う 65

電話回線

- 電話回線の種類 78
- 電話回線をつなぐ 76

ドラッグ 23

ナ

内蔵モデム

- 内蔵モデムを電話回線につなぐ 76

日本語入力 26

ネットワーク

- ネットワークにつなぐ 71
- ネットワークカード 71、90

ハ

ハードディスク

- 取り扱いについて 120

パスワード

- 削除する 101
- 登録する 99
- 変更する 100

パソコン通信

- パソコン通信とは 43
- パソコン通信を楽しむ 45

バックアップを取る 121、123

バッテリー

- 残量を確認する 110
- 充電する 41
- 消費電力を節約する 104
- 取り付ける 40
- 取りはずす 41
- ランプ 39

パワーマネージメント機能 104

ビデオカード 90

ビデオCD 72

ファックス

- ファックスを受ける 67
- ファックスを準備する 61
- ファックスを送る 66

プリンター

- プリンターをつなぐ 86
- プリンタポート 86
- プリンタポートの設定を変更する 97

フロッピーディスク

- 入れる 36
- 使用できるフロッピーディスク 37
- 初期化する 36
- データを書き込み禁止にする 37
- 取り扱いについて 121
- 取り出す 36

フロッピーディスクドライブ

- 取り付ける 34
- 取りはずす 35

プロバイダー 43

ヘルプ 15

ポートリプリケーター 70、84

ボイスメモ 53

ポインター 22

本機の情報を確認する 94

マ

マウス

- マウスをつなぐ 88

右ボタン 23

モジュラージャック 76

メモリー

- 増設する 89

メモリーカード 71、89

文字入力 26

モデム 61、76

ラ

リカバリCD

- 本機を再セットアップする 130

留守番電話 65

ワ

ワードパッド 27

アルファベット順

A

ACアダプター 18
AC電源 18

B

BatteryScope 110

C

Communication Center 61
Community Place Browser 73
CD-ROM
 お手入れ 124
 取り扱いについて 122
CD-ROMドライブ
 取り付け 79
 取りはずす 80
CPU 126

I

IrDA 68、95

L

LAN 71

M

Media Bar 72

N

Navin' You Lite 73

P

PCカード
 PCカードとは 89
 PCカードを使う 71、89
 PCカードを取り付ける 90
 PCカードを取り出す 92
PictureGear Lite 73、81
PowerPanel 104
PS/2 88

R

RS-232Cケーブル 70

S

Save To Diskモード 108、140
SCSIカード 90
Sony Notebook Setup 94

T

TAカード 90
TranXit 68

W

Windows 95 19